



Kyushu FG

会社説明会

2024年12月

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

東証プライム上場 証券コード: 7180



I 2024年9月期 決算概要

1. 決算概況	P.4
2. 当中間純利益の増減要因	P.5
3. 資金利益	P.6
4. 総資金利鞘と利回り	P.7
5. 役務取引等利益	P.8
6. 経費	P.9
7. 貸出金	P.10
8. 与信費用と金融再生法開示債権	P.11
9. 有価証券	P.12
10. 円債・外債の状況	P.13
11. 政策保有株式	P.14
12. 総預金	P.15
13. 自己資本比率	P.16
14. 業績予想	P.17

II 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み

1. 現状分析	P.19
2. 当社グループが目指す姿	P.20
3. PBR改善ロジックツリー	P.21
4. ROE向上施策の取り組み状況	P.22
5. PER向上施策の取り組み状況	P.24

III 第4次グループ中期経営計画「躍進」の進捗状況

1. 第4次グループ中期経営計画の位置付け	P.26
2. 「地域価値共創グループへの進化」について	P.27
3. 地域価値共創ビジョン	P.28
4. 第4次グループ中期経営計画の概要	P.29
5. 第4次グループ中期経営計画の実績	P.30
6. 【基本戦略1】未来を創る地域価値提供の取り組み加速	P.31
7. 【基本戦略2】地域経済の成長に向けたコア事業の強化	P.32
8. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立	P.33

計数資料



Kyushu FG

2024年9月期 決算概要

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 決算概況（連結 2行合算）

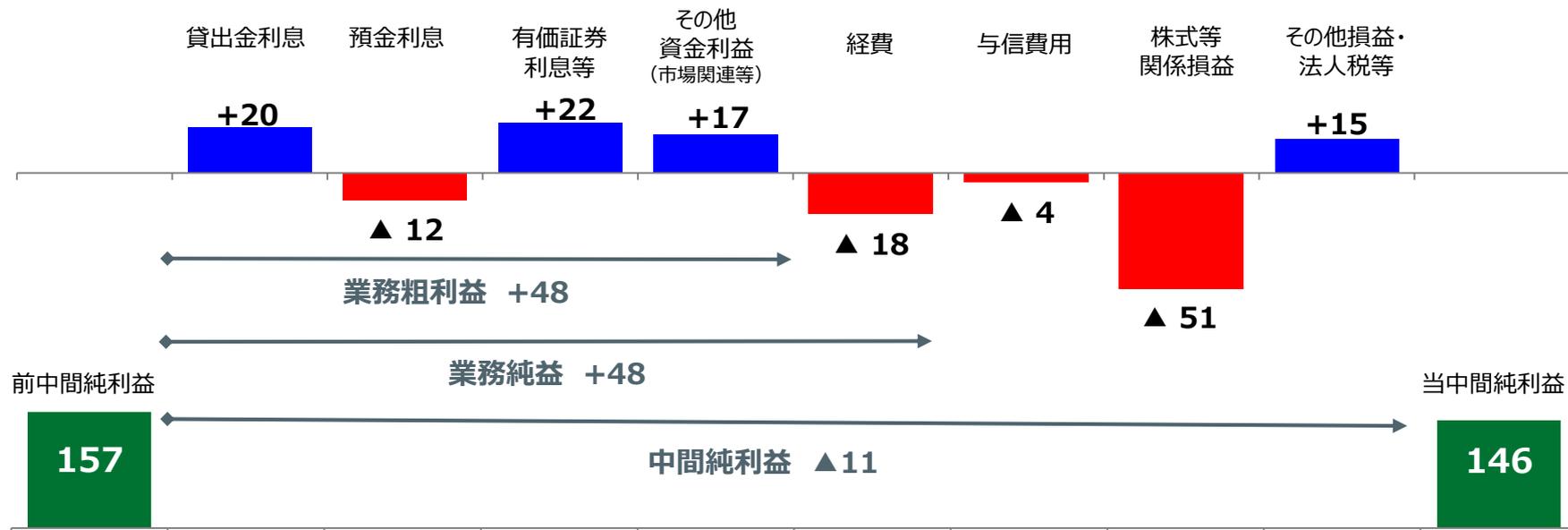
業務粗利益 570億円 : 資金利益及び役務取引等利益が堅調に推移したことから、設立来2番目の水準
 業務純益 170億円 : 業務粗利益は高水準であったが、経費が設立来最も大きくなったことから、例年並みの水準
 中間純利益 146億円 : 株式等売却益を例年より多く計上したことで、設立来3番目の水準

損益状況 (億円)	K F G 連結			2行合算		
	2024年度	前年同期比	2023年度	2024年度	前年同期比	2023年度
	中間期		中間期	中間期		中間期
経常収益	1,086	▲ 39	1,126	872	▲ 52	924
業務粗利益	570	48	521	526	38	487
資金利益	493	48	445	499	41	458
役務取引等利益	87	3	83	74	2	72
その他業務利益	▲ 11	▲ 2	▲ 8	▲ 47	▲ 5	▲ 42
(うち国債等債券損益)	1	21	▲ 20	1	21	▲ 20
経費 (▲)	400	18	382	363	13	349
コア業務純益	168	8	159	161	3	157
一般貸倒引当金繰入額(▲)	-	-	-	▲ 6	▲ 11	5
業務純益	170	30	139	169	36	132
臨時損益	42	▲ 45	87	36	▲ 57	93
不良債権処理額等(▲)	▲ 1	4	▲ 5	3	14	▲ 10
株式等関係損益	30	▲ 51	81	30	▲ 51	81
その他臨時損益	10	9	0	9	8	1
経常利益	212	▲ 15	227	205	▲ 21	226
特別損益	▲ 1	▲ 1	0	▲ 1	▲ 1	0
中間純利益	146	▲ 11	157	143	▲ 17	161
(与信費用)	▲ 1	4	▲ 5	▲ 2	3	▲ 5

2. 当中間純利益の増減要因（連結・前年同期比）

当中間純利益の増減要因（K F G 連結）

（単位：億円）



○資金利益 前年同期比 +48億円
 ・貸出金利息 +20億円
 ・預金利息 ▲12億円
 ・有価証券利息配当金等 +22億円
 ・その他資金利益 +17億円

○経費 前年同期比 +18億円
 ・人件費 +2億円
 ベースアップ等
 ・物件費 +14億円
 減価償却費、システム保守料の増加等

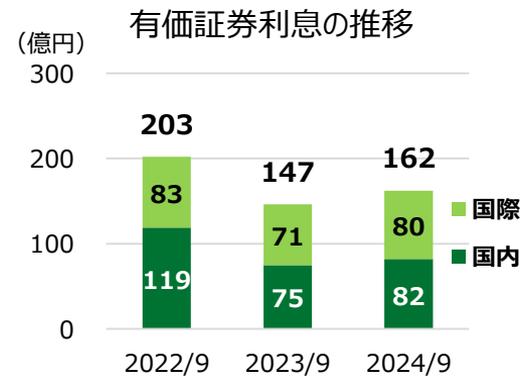
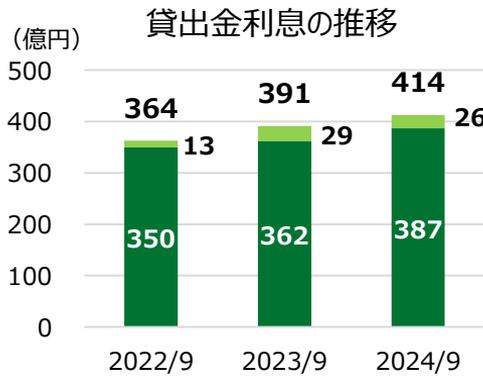
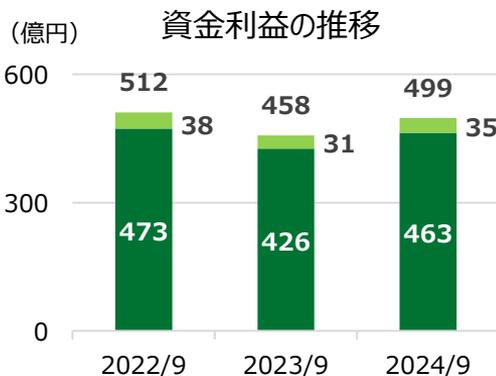
○臨時損益 前年同期比 ▲45億円
 ・株式等関係損益 ▲51億円
 国内・外国株式等売却

3. 資金利益（2行合算）

- 資金利益は、貸出金利息や有価証券利息の増加により、前年比+41億円の499億円となった。
（国内部門 前年比+36億円 国際部門 前年比+4億円）

資金利益の状況（2行合算）

	2022/9			2023/9			2024/9			2023/9比 増減
	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	
資金利益	512	264	247	458	225	232	499	251	247	41
国内部門	473	240	233	426	203	223	463	229	234	36
うち貸出金利息	350	169	180	362	176	185	387	190	196	25
うち有価証券利息	119	70	48	75	34	40	82	43	38	6
うち資金調達コスト（▲）	5	4	0	12	9	2	25	14	▲10	12
国際部門	38	24	14	31	21	9	35	22	13	4
うち貸出金利息	13	9	3	29	22	6	26	24	2	▲2
うち有価証券利息	83	49	34	71	48	23	80	53	26	8
うち金利スワップ受入利息	-	-	-	53	24	28	58	25	33	5
うち資金調達コスト（▲）	59	34	24	123	73	49	130	81	49	6



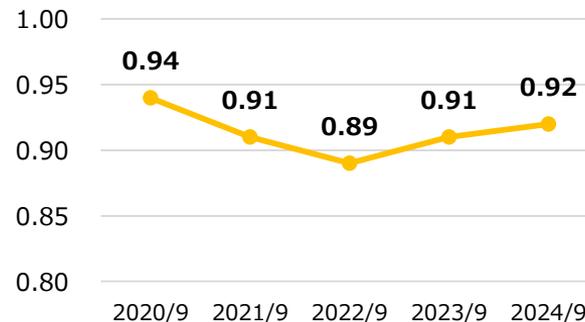
4. 総資金利鞘と利回り（2行合算 銀行別）

- ・ 資金運用利回りは、有価証券利回りの上昇により前年同期比+0.09%の1.15%となった。
- ・ 総資金利鞘は、有価証券利回りの上昇などにより前年同期比+0.03%の0.35%となった。

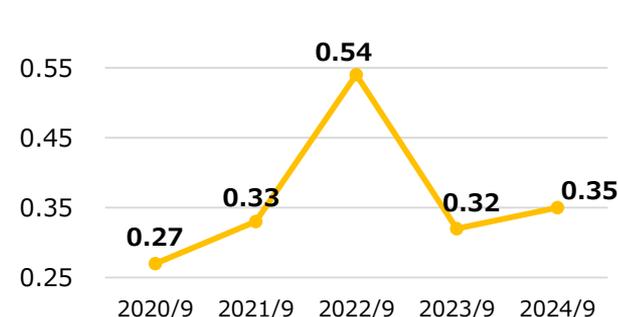
総資金利鞘の状況

2行合算	2022/9	2023/9	2024/9	2024/9		2023/9比
				肥後	鹿児島	
①資金運用利回り	1.09%	1.06%	1.15%	1.16%	1.14%	0.09%
貸出金利回り	0.89%	0.91%	0.92%	0.93%	0.92%	0.01%
うち外貨貸出金利回り	2.43%	5.87%	5.80%	5.99%	4.51%	▲0.07%
有価証券利回り	1.77%	1.40%	1.56%	1.61%	1.48%	0.16%
うち外貨有価証券利回り	2.24%	2.59%	2.57%	2.83%	2.16%	▲0.02%
②資金調達原価	0.55%	0.74%	0.80%	0.85%	0.74%	0.06%
資金調達利回り	0.09%	0.19%	0.23%	0.27%	0.18%	0.04%
うち外貨調達利回り	1.72%	5.51%	5.41%	5.42%	5.39%	▲0.10%
経費率	0.62%	0.66%	0.68%	0.69%	0.67%	0.02%
総資金利鞘 (① - ②)	0.54%	0.32%	0.35%	0.31%	0.40%	0.03%

貸出金利回りの状況（2行合算 銀行別）



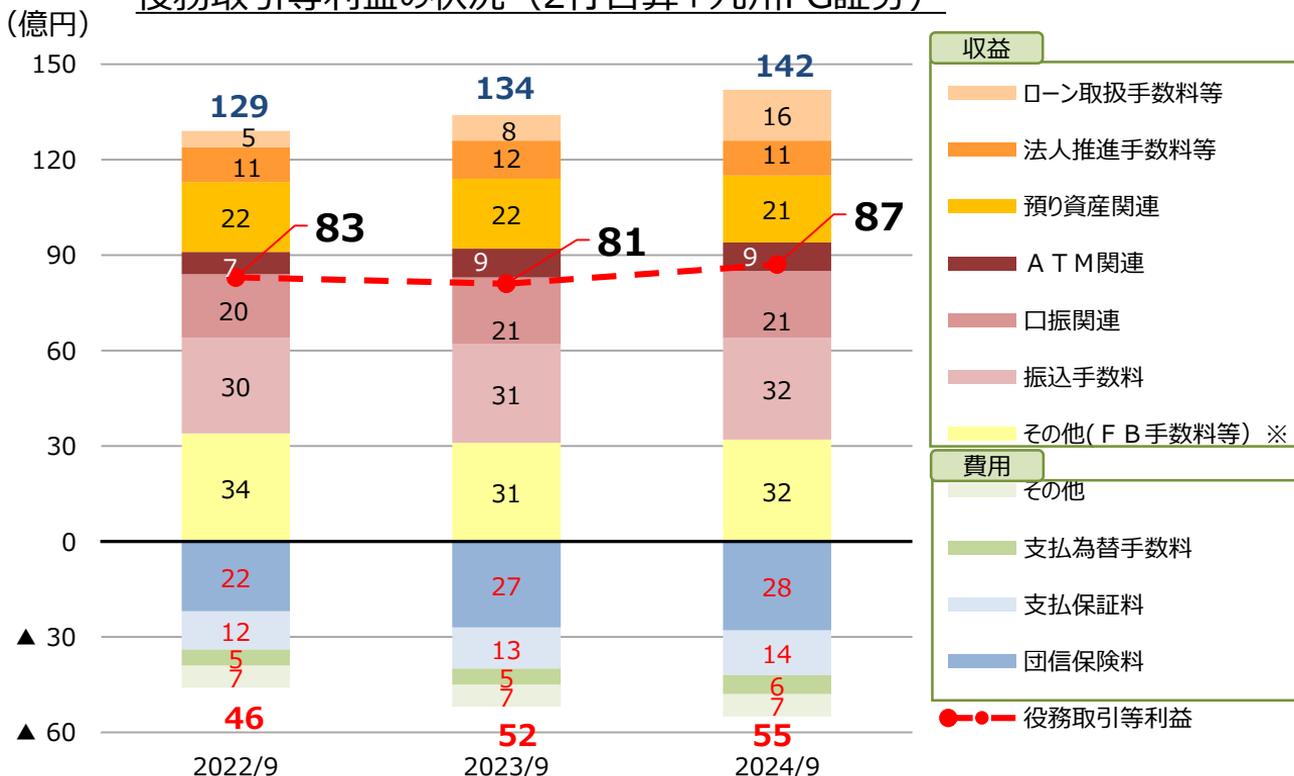
総資金利鞘の状況（2行合算 銀行別）



5. 役務取引等利益（2行合算+九州FG証券）

・ 2行、九州FG証券合算の役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等により、前年比+2億円の87億円となった。

役務取引等利益の状況（2行合算+九州FG証券）



収益の主な増加要因

- ・ローン取扱手数料 +8億円
主に住宅ローン取扱手数料

当年度実績（2行合算）
住宅ローン新規実行額
1,312億円/4,134件

※収益「その他」（内訳）
FB手数料 4億円
受入保証料 1.5億円
信託業務手数料 1.7億円 など

費用の主な増加要因

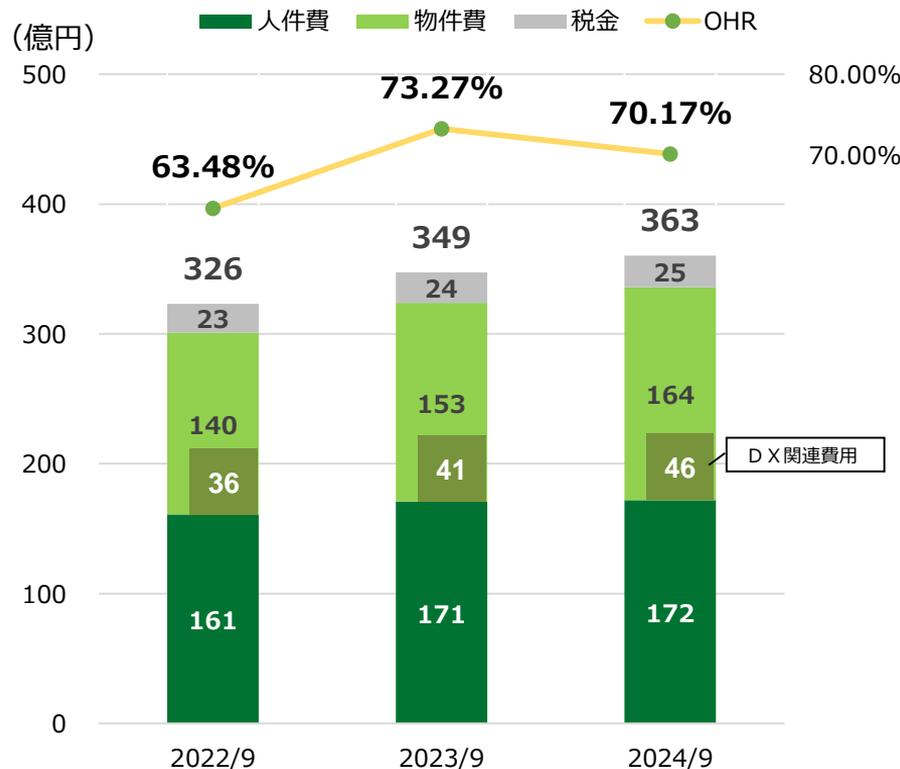
- 支払保証料 +1億円
- 団信保険料 +1億円

※ 今年度より、過年度分も含め役務取引集計区分を変更しております。

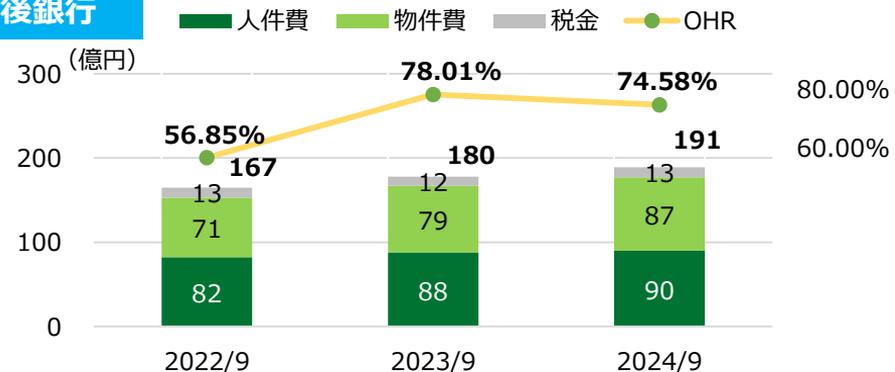
6. 経費（2行合算 銀行別）

- ・ 経費は、人事制度改定やベア引上げに伴う人件費及び物件費等の増加から、前年比+13億円の363億円となった。
- ・ OHRは、経費は増加したものの、業務粗利益が増加したことから前年比▲3.10%の70.17%となった。

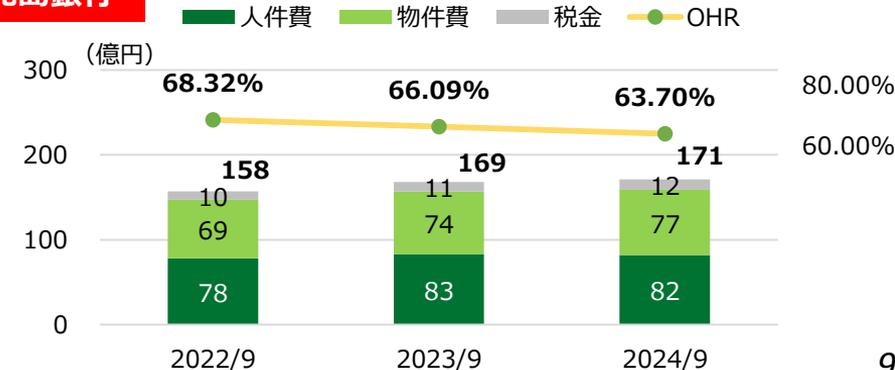
経費の状況（2行合算）



肥後銀行



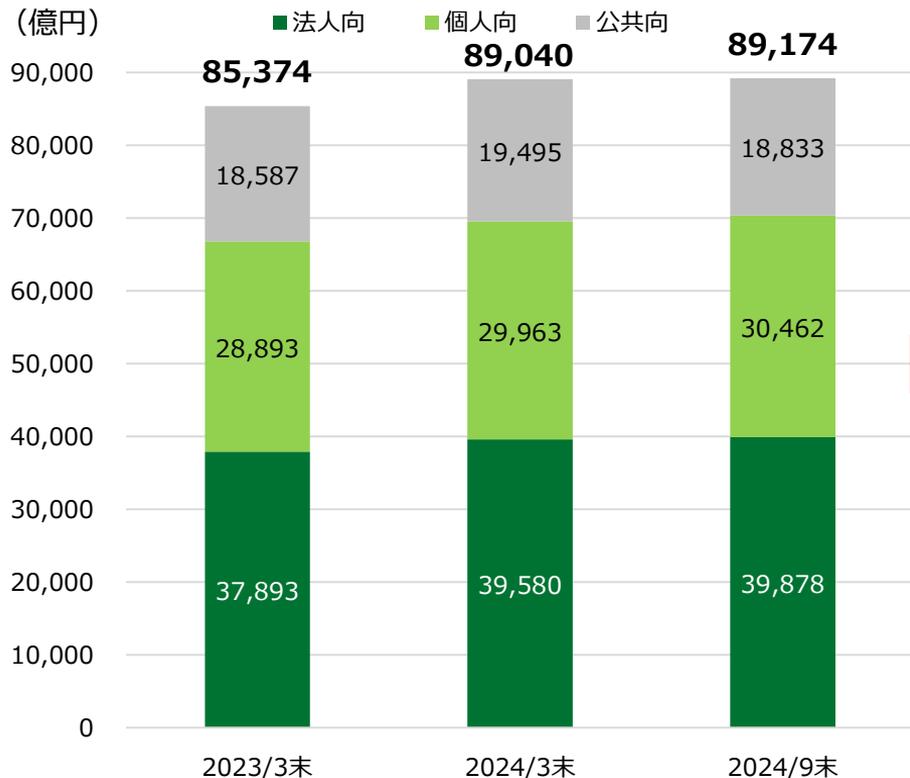
鹿児島銀行



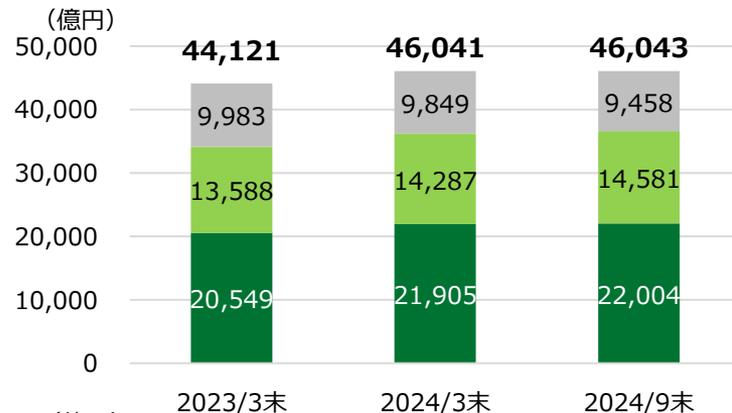
7. 貸出金 (2行合算 銀行別 残高)

- 貸出金残高は、前年度末比+134億円（増減率+0.1%）の8兆9,174億円となった。
- 法人向、個人向に増加。公共向に減少。（法人向：+297億円 個人向：+498億円 公共向：▲662億円）

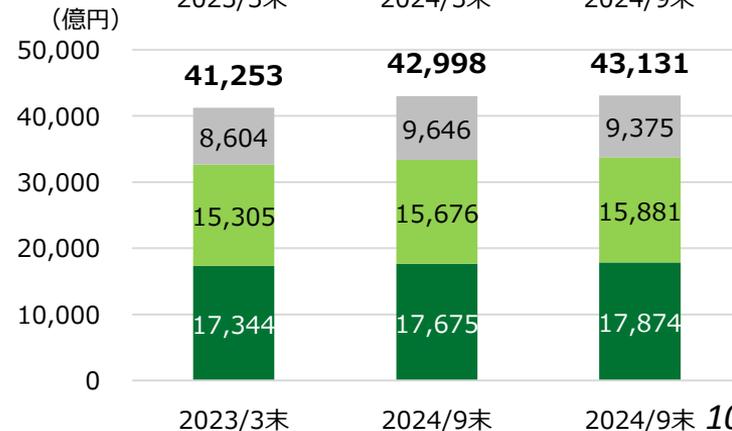
貸出金残高の状況 (2行合算)



肥後銀行



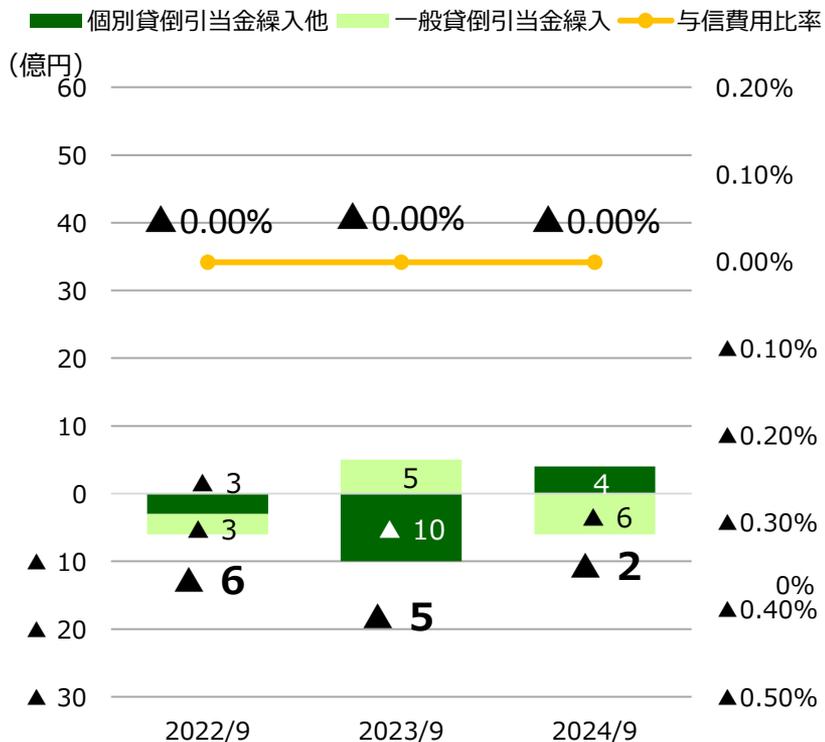
鹿児島銀行



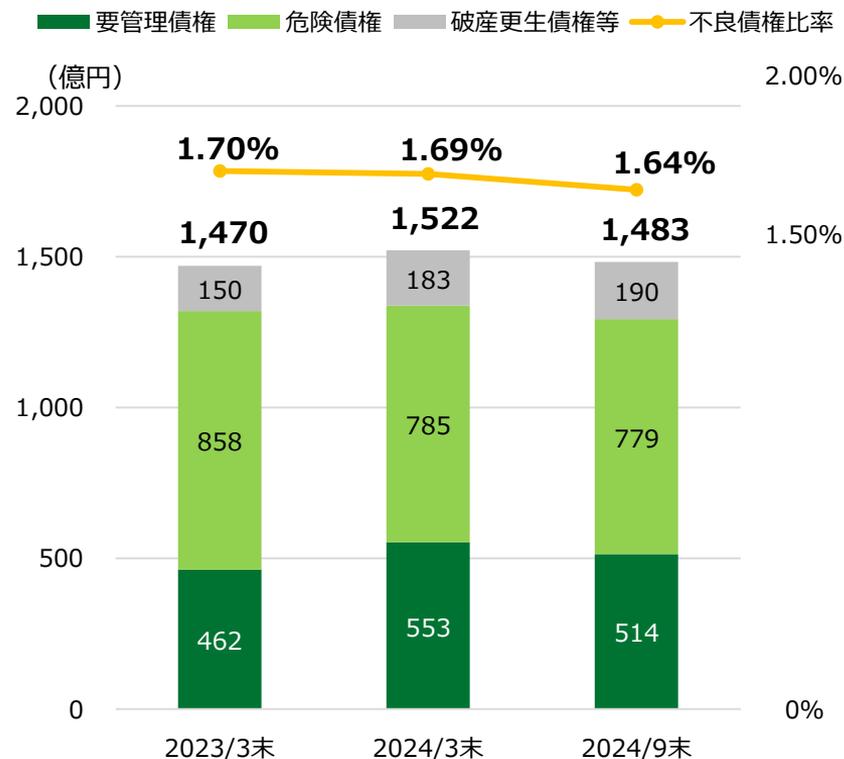
8. 与信費用と金融再生法開示債権（2行合算）

- 与信費用は、貸倒引当金の戻入益を計上、前年比+3億円の▲2億円となった。
- 金融再生法開示債権は、前年度末比▲38億円の1,483億円、不良債権比率は前年度末比▲0.05%の1.64%となった。

与信費用の状況（2行合算）



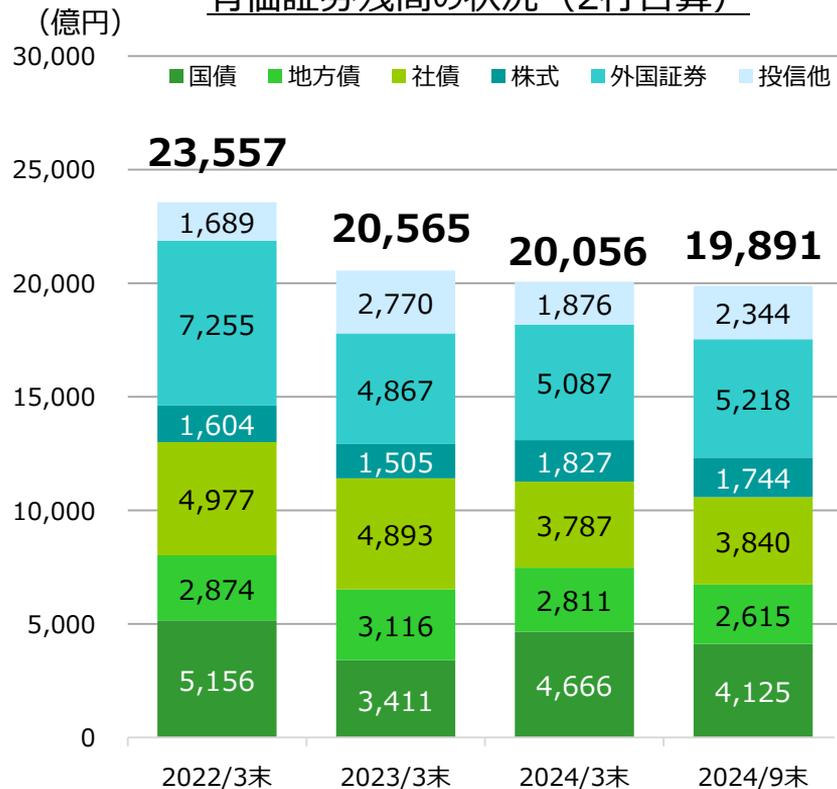
金融再生法開示債権の状況（2行合算）



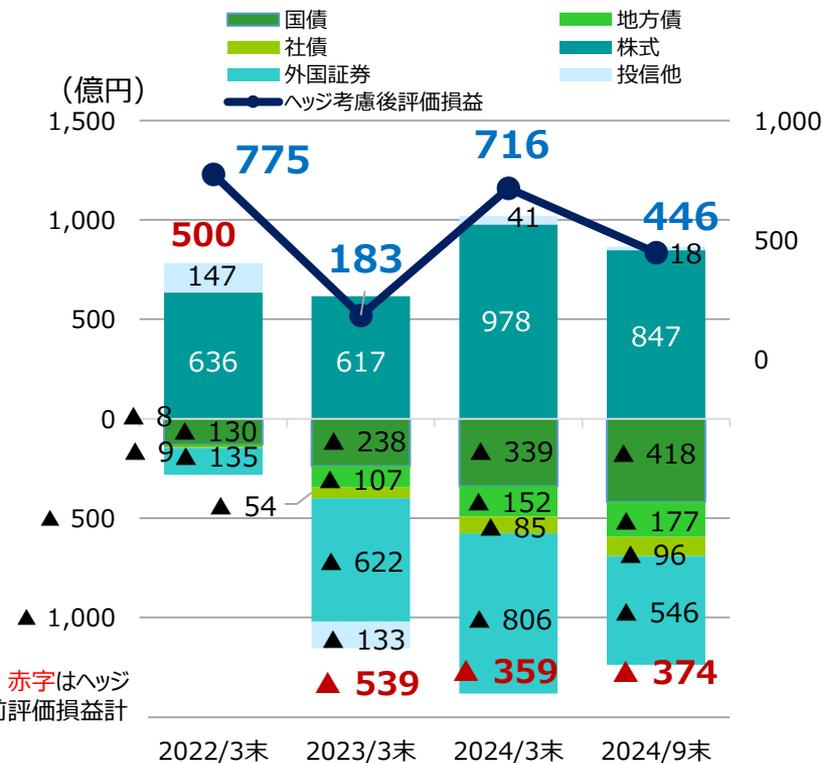
9. 有価証券（2行合算）

- 有価証券残高は、国債、地方債等の減少により、前年度末比▲165億円の1兆9,891億円となった。
- 有価証券評価損益は、株式等の評価損益が減少し、前年度末比▲15億円の▲374億円となった。
- ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、446億円となった。

有価証券残高の状況（2行合算）



有価証券評価損益の状況（2行合算）

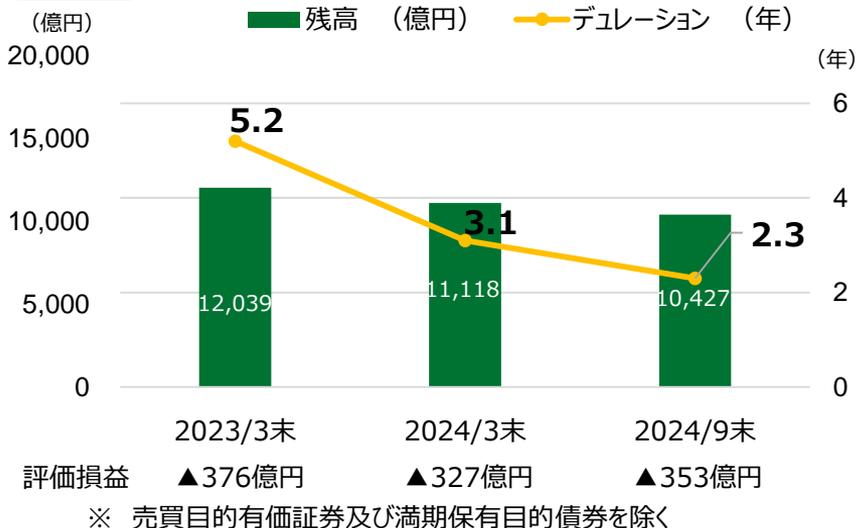


(注) 赤字はヘッジ考慮前評価損益計

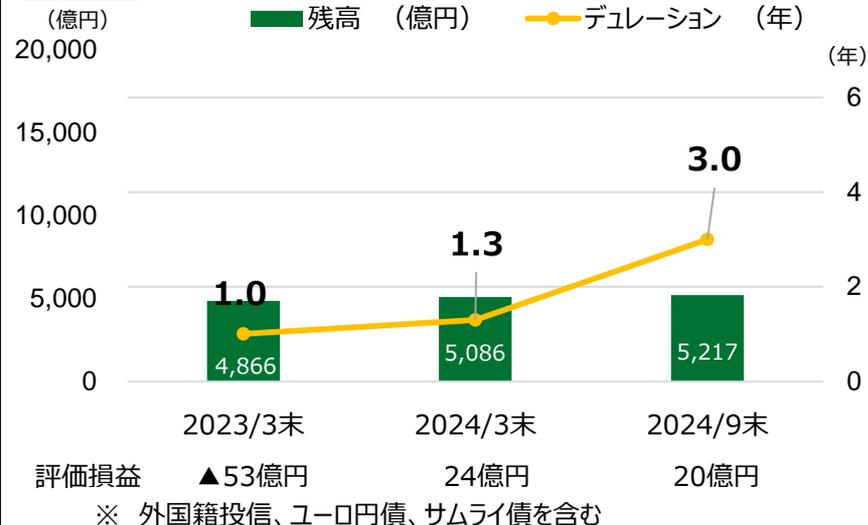
10. 円債・外債の状況（2行合算 ヘッジ考慮後）

- 円債、外債ともに入れ替えを進め、デュレーション、金利リスクをコントロールしている。

円債



外債



金利上昇時の影響（有価証券評価損益への影響額）

平行に10bps上昇した場合の試算値

円債	▲25億円
外債	▲3億円

- ※ 1 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く
- ※ 2 金利スワップ・債券ヘッジ型ファンドを含む

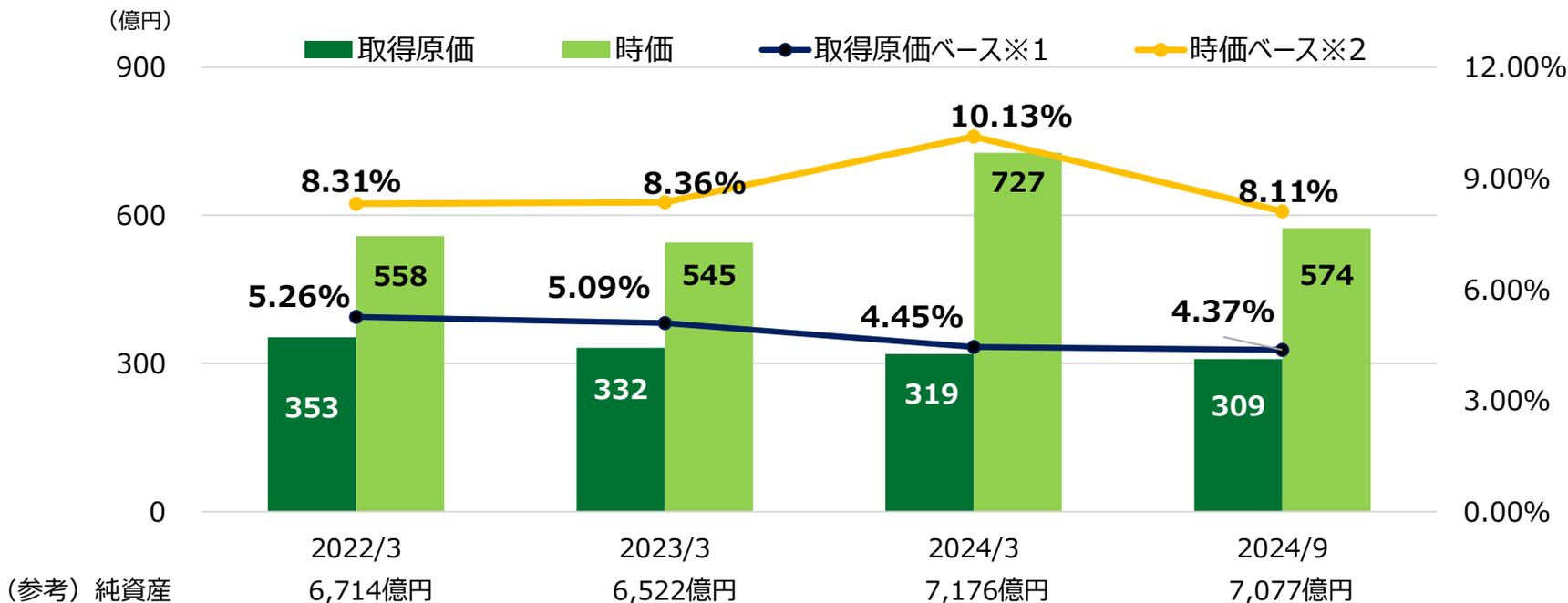
金利期間別影響額

(億円)	1年未満	1~3年	3~5年	5~7年	7~10年	10年超
円債	▲0.7	▲2.5	5.1	▲5.5	▲7.0	▲14.3
外債	▲0.2	▲0.5	▲0.8	▲1.0	▲0.9	▲0.3

1.1. 政策保有株式

- 純資産に対する比率は、取得原価ベースでは着実に低下し、低水準で推移。株式相場の影響により変動するものの、時価ベースでも減少傾向。

政策保有株式の状況（KFG連結）



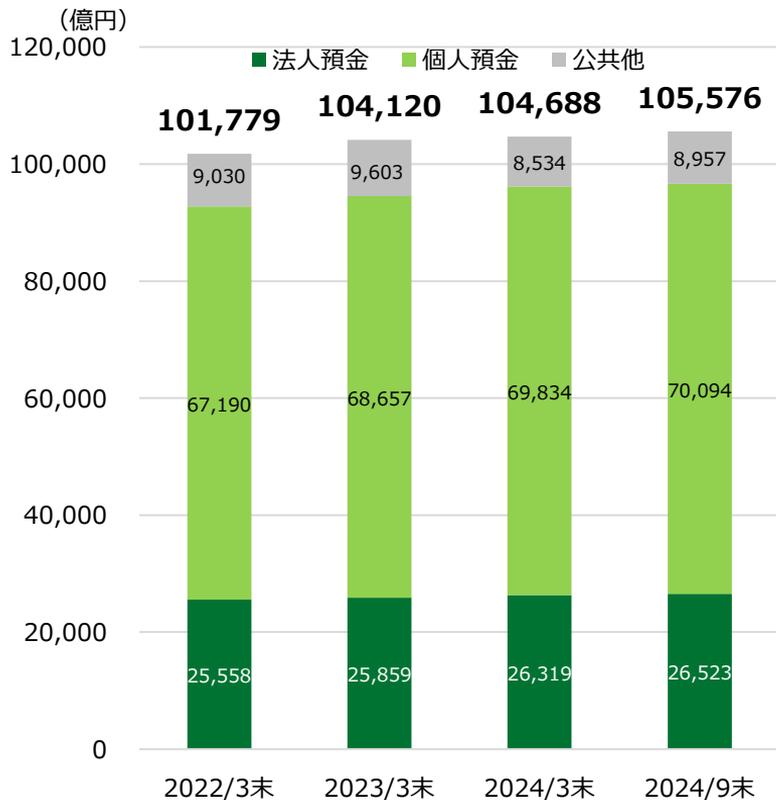
※1：政策保有株式（取得原価）÷純資産により算出

※2：政策保有株式（時価）÷純資産により算出

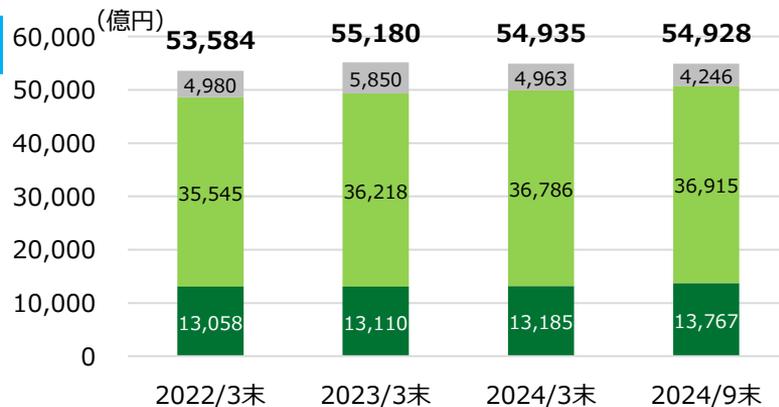
12. 総預金（2行合算 銀行別 残高）

- 総預金残高は、前年度末比+887億円（増減率+0.8%）の10兆5,576億円となった。
 （法人預金：+204億円 個人預金：+260億円 公共他：+423億円）

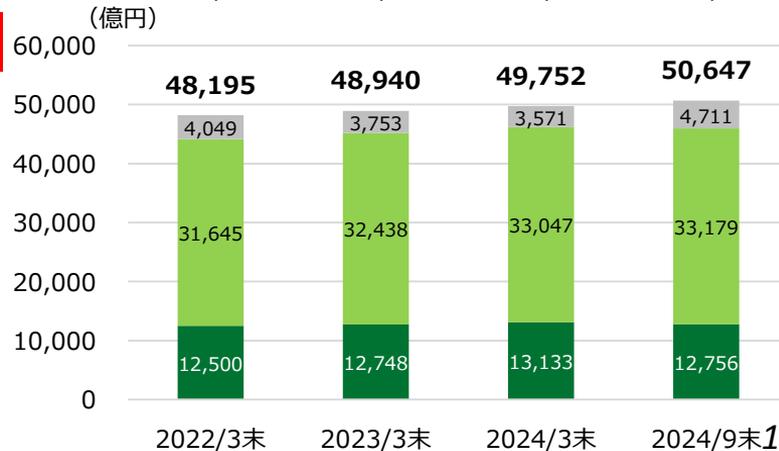
総預金残高の状況（含むNCD 2行合算）



肥後銀行



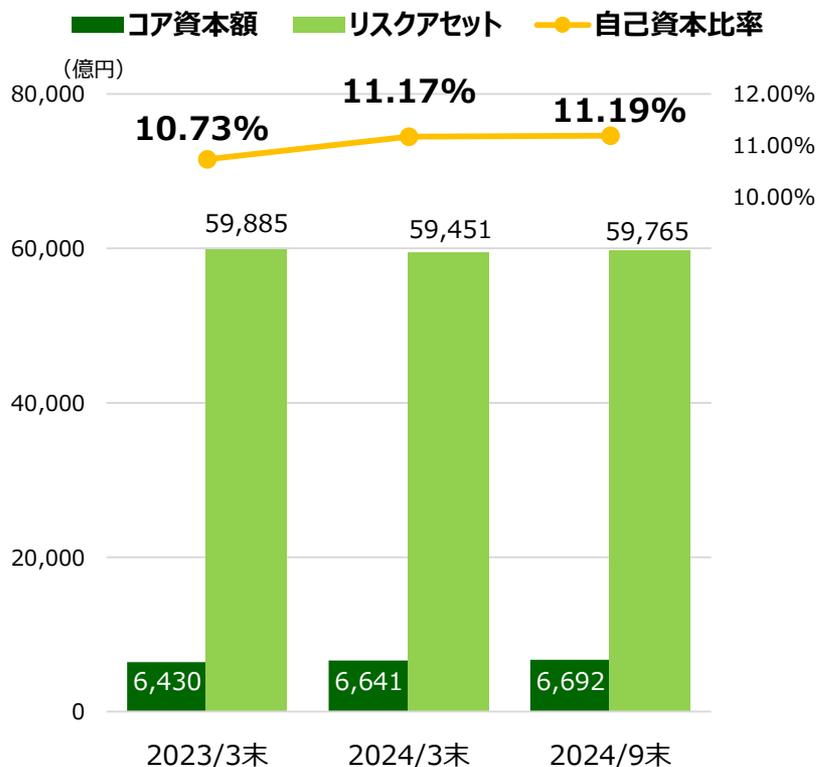
鹿児島銀行



13. 自己資本比率（連結 銀行別）

- ・ コア資本額は前年度末比 + 51億円の6,692億円、リスクアセットは前年度末比 + 314億円の5兆9,765億円となった。
- ・ 自己資本比率は前年度末比 + 0.02%の11.19%となった。

自己資本比率の状況（K F G連結）



自己資本比率（K F G連結）

(億円)

	2024/3	2024/9	増減
①コア資本額	6,641	6,692	51
うち株主資本の額	6,576	6,684	108
②リスクアセット	59,451	59,765	314
③自己資本比率 (①÷②)	11.17%	11.19%	0.02%

自己資本比率（2行）

(億円)

	2024/3		2024/9		増減	
	肥後	鹿児島	肥後	鹿児島	肥後	鹿児島
①コア資本額	3,117	3,120	3,151	3,130	34	9
うち株主資本の額	3,166	2,997	3,220	3,044	54	67
②リスクアセット	29,808	28,811	30,140	28,820	332	9
③自己資本比率 (①÷②)	10.45%	10.83%	10.45%	10.86%	-	0.03%

2024年度業績予想（K F G連結）

（億円）

K F G連結	2024/3 （実績）	2025/3※ （業績予想）	増加額	前回業績予想 （2024/5）	修正額
連結経常利益	384	415	+31	370	+45
当期純利益	263	285	+22	255	+30

※2024年11月5日、業績予想上方修正後の計数

2024年度業績予想（2行合算）

（億円）

2行合算	2024/3 （実績）	2025/3※			前回予想		
		2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島
経常利益	382	405	215	190	355	185	170
当期純利益	271	280	150	130	250	130	120
与信費用	51	16	▲4	20	26	▲4	30

※2024年11月5日、業績予想上方修正後の計数



Kyushu FG

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた取り組み

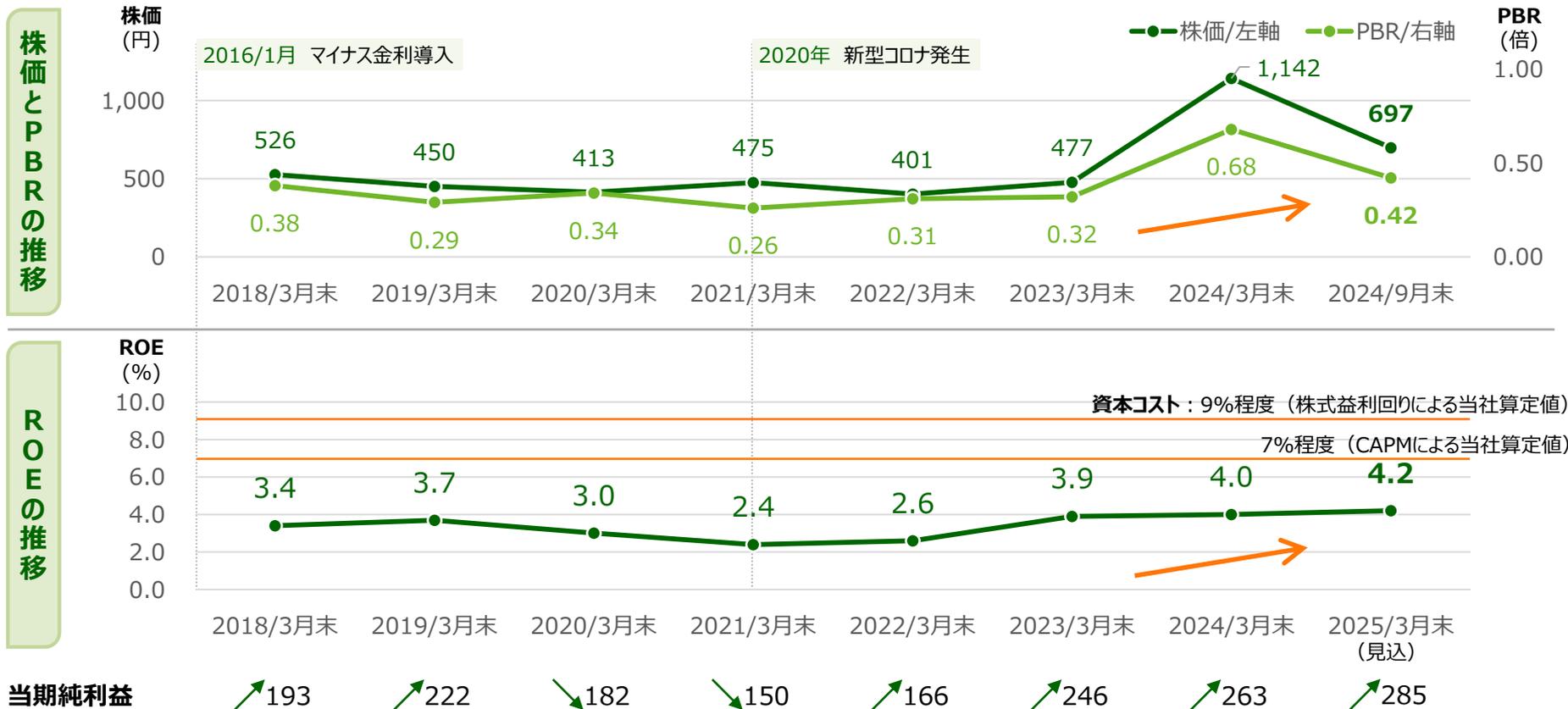
株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



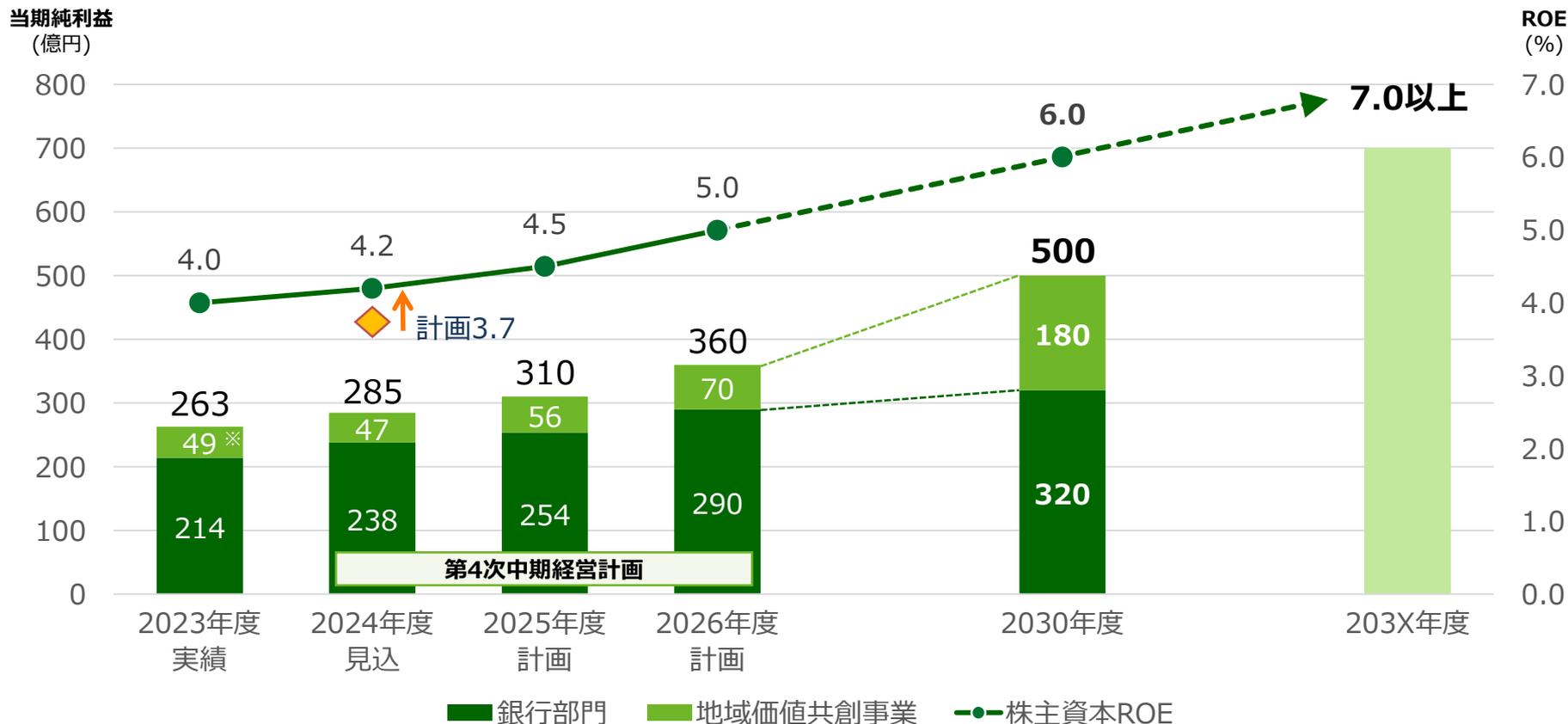
1. 現状分析（当社株価・PBR・ROEの推移）

◆ PBR・ROEともに中期的に上昇傾向、資本コストや株価を意識した着実な経営に取り組む



2. 当社グループが目指す姿（利益・ROE向上）

◆ 継続的にリスク・リターンの改善を図り、中長期的に資本コストに見合うROE7%以上を目指す



※銀行の預り・法人ソリューション役務を、地域価値共創事業に算入

3. PBR改善ロジックツリー

◆ 2024年度目標値に対する進捗状況は概ね良好、PBR改善に向けて堅調に推移

						2024年度		評価		
						目標	見込・実績			
PBR改善	ROE向上	RORA改善	収益力強化	コア事業の強化	法人貸出平残	40,000億円	40,000億円	😊	P22	
					個人（住宅）ローン平残	26,800億円	26,000億円	😬		
			役務取引の強化	役務利益比率★	14.3%	15.3%	😊	P22		
		コストコントロール	経費コントロール	OHR★	70.2%	70.0%	😊	P22		
			与信費用コントロール	与信費用比率	0.02%	0.02%	😊	P23		
		リスクアセットコントロール	アセットアロケーション	自己資本比率のコントロール★	10.95%	中間 11.19%	😬	P23		
	財務レバレッジコントロール	資本の有効活用	リスクアセット削減	政策投資の縮減	2%台前半*1	前年度比 ▲14億円*2	😊	P23		
		株主還元の実現	業績連動型の配当	予想DPS（1株当たり配当金）	18円	20円	😊	P23		
		資本コスト抑制	事業リスク低減	業績ボラティリティの改善	業績予想・実績乖離	±30%以内	中間4期ぶり +30%以内	😊	P24	
	ESG評価の向上			FTSE ESGスコア（ガバナンス）	銀行セクター 世界平均以上	平均比▲0.3	😬	P24		
	PER向上	期待成長率向上	地域経済の活性化	地域価値共創事業の強化	地域価値共創事業収益額★	45億円	47億円	😊	P24	

*1…2027年3月末時点の国内上場株式取得簿価の純資産に占める割合

*2…取得簿価の減少額

4. ROE向上施策の取組み状況①

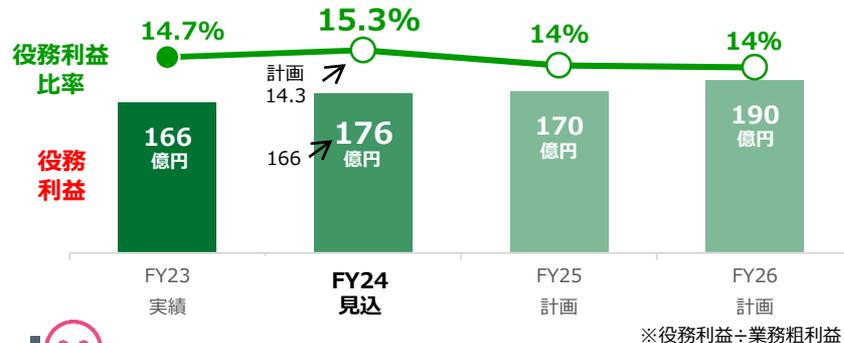
◆ コア事業は法人貸出を中核に良好に推移。役務収益は増加、OHRもほぼ計画通りの推移見込み

コア事業の強化～法人貸出・住宅ローン（平残）



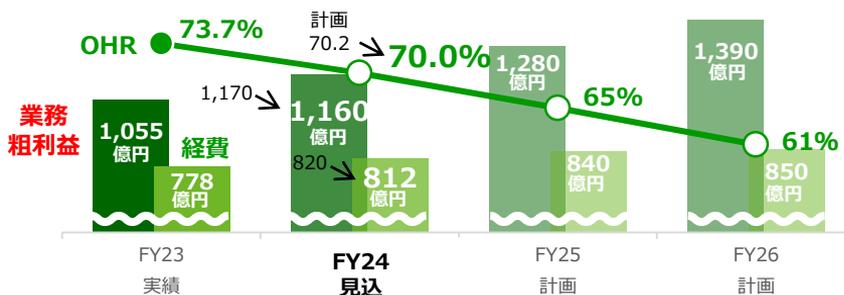
役務取引の強化～役務利益比率*

－法人・個人共に計画比増加の見込



経費コントロール～OHR

－経費の増加を増益で吸収。OHRは概ね計画通りの見込



4. ROE向上施策の取組み状況②

◆ 与信コスト抑制、政策投資株式削減は順調。増益により増配見込。自己資本比率は適正水準を上回る



与信費用コントロール～与信費用比率*

－与信費用は減少。与信費用比率もほぼ計画通りの推移を見込む

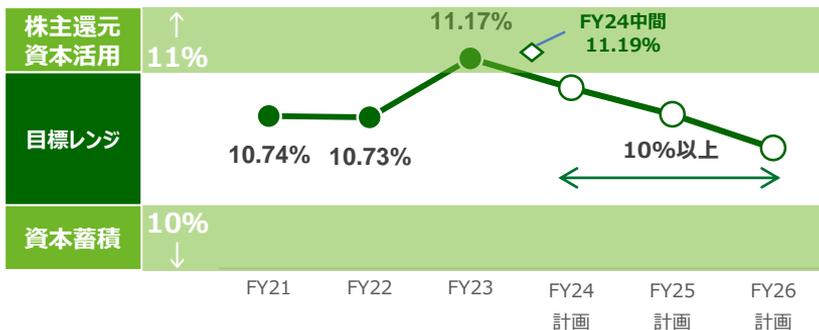


※与信費用÷貸出金平残



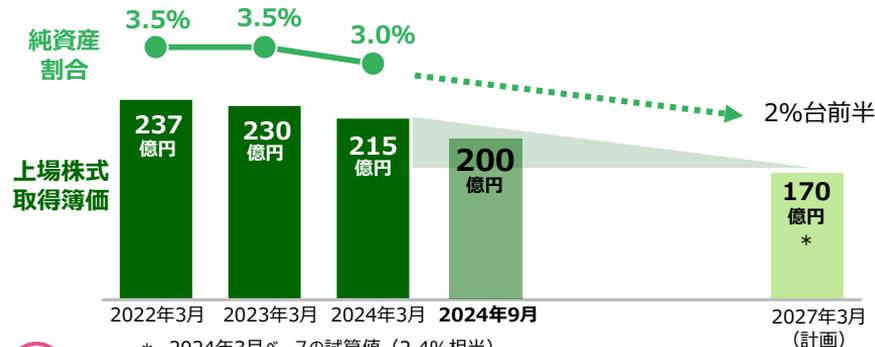
アセットアロケーション～自己資本比率のコントロール

－足許は11%を上回るも、適正水準内への制御を見込む



リスクアセット削減～政策投資株式の縮減

－政策投資株式の削減は着実に進捗

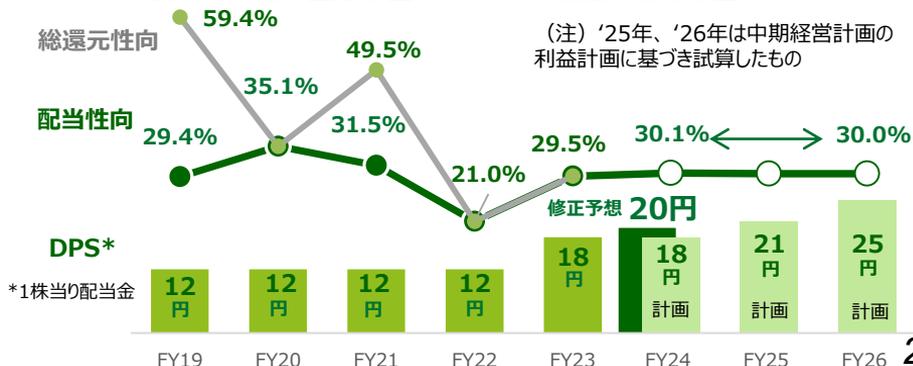


* 2024年3月ベースの試算値 (2.4%相当)



業績連動型の配当～予想DPS (1株当たり配当金)

－24年度業績予想の上方修正に伴い、年間配当予想を修正



*1株当たり配当金

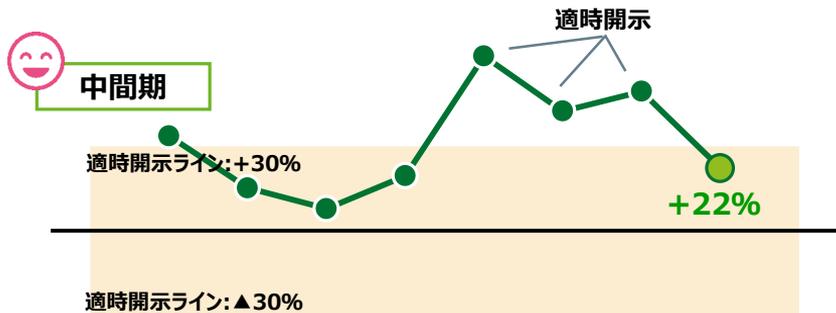
(注) '25年、'26年は中期経営計画の利益計画に基づき試算したもの

5. PER向上施策の取り組み状況

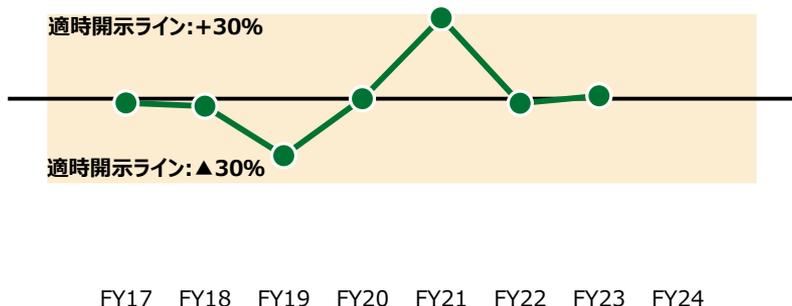
◆ 業績ボラティリティの改善に成果。ESG評価は不芳も、共創事業収益は計画通りの積み上げを見込む

業績ボラティリティの改善～業績予想に対する純利益の乖離率

– 24年度中間期は4期ぶりに適示開示ラインを下回る。



通期



ESG評価の向上～FTSE ESGスコア (ガバナンス) 他

– ガバナンススコアは銀行平均を下回るも、GPIF採用の6指数の全選定を目指して開示を強化



地域価値共創事業の強化～地域価値共創事業収益額

– 銀行部門の預り・法人ソリューション役務を中核に着実な収益積み上げを実現見込



FY17 FY18 FY19 FY20 FY21 FY22 FY23 FY24



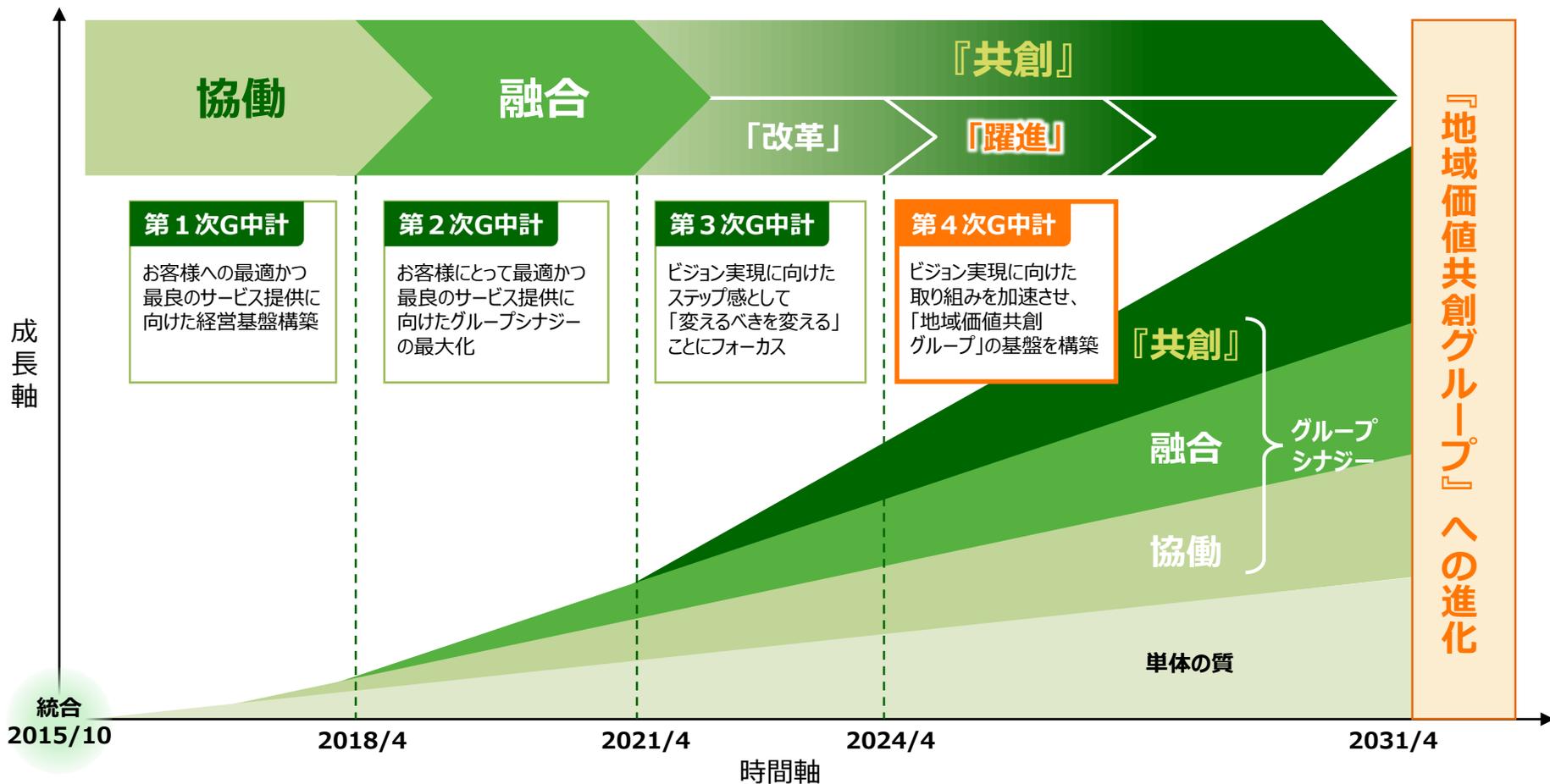
Kyushu FG

第4次グループ中期経営計画「躍進」 の進捗状況

株式会社九州フィナンシャルグループ
Kyushu Financial Group, Inc.



1. 第4次グループ中期経営計画の位置付け



地域にどのような地銀があるかによって、その地域の未来が変わる

予測される
未来

人口減少

未来のビジョンを
どう設定するかで
道は分かれる

成り行き
の
未来

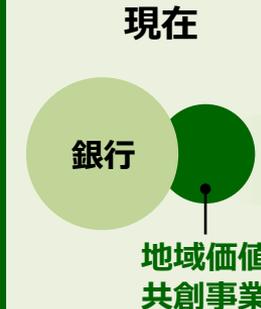


自ら変化せず、環境変化に受け身
生産性は現状とほぼ変わらず
→地域も銀行Gも縮小へ

未来



意志のある
未来



新たな事業への挑戦・事業領域の拡充

- ・DXとSDGsへの投資
- ・人的資本への投資

→「生産性の向上」「域外需要取り込み」
「新産業・新事業の創出」を通じ、
地域もKFGも拡大へ

未来



3. 地域価値共創ビジョン

グループ会社等

2023年度

中計

実績

13%
33億円

7%
19億円
▲6%
▲14億円

事業開発部門

銀行以外の金融部門

銀行

銀行

87%
227億円

93%
244億円
+6%
+17億円

含む信託

預り、法人ソリューション

連結当期純利益

263億円

+3億円

19%
70億円

2026年度 (中計最終年度)

地域価値共創事業

事業開発部門

人材(紹介・派遣・教育)
リサーチ&コンサル 6億円

九州デジタルソリューションズ 2億円

九州みらいCreation

新規事業

銀行以外の
金融部門

グループ会社(リース・カード) 21億円

九州FG証券 6億円

銀行部門(預り、法人ソリューション) 34億円

銀行

81%
290億円

預り、法人ソリューションを除く

360億円

36%
180億円

2030年度 (共創ビジョン)

地域価値共創事業

事業開発部門

人材(紹介・派遣・教育)
リサーチ&コンサル 10億円

九州みらいCreation 3億円

九州デジタルソリューションズ 10億円

九州会計サービス 0.2億円

新規事業 36億円

銀行以外の
金融部門

新規事業

グループ会社(リース・カード) 21億円

九州FG証券 50億円

銀行部門(預り、法人ソリューション) 50億円

銀行

64%
320億円

預り、法人ソリューションを除く

500億円

第4次グループ中期経営計画「躍進」 (2024年4月～2027年3月)

基本方針

地域価値共創グループ実現へ向けての躍進

基本戦略

1. 未来を創る地域価値提供の取り組み加速

戦略の柱

- ① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充
- ② 地域・お客さま起点のソリューション提供

2. 地域経済の成長に向けたコア事業の強化

戦略の柱

- ① 地域産業の成長支援強化
- ② ライフプランコンサルティングの深化

3. 持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

戦略の柱

- ① 人的資本経営の実践による社員価値向上
- ② GX・DXにかかる先進的な取り組み
- ③ KFGビジネスモデルの変革

5. 第4次グループ中期経営計画の実績

グループKPI

	2023年度 実績	2024年度			中計最終 年度目標 (2026年度)
		中間期 実績	前年同期比	通期予想	
当期純利益 (億円)	263	146	▲11	285	360億円
コア業務純益 (億円)	348	168	+8	343	530億円
お客様向けサービス業務利益 ※1 (億円)	228	115	+2	213	325億円
役務利益比率※2 (%)	14.7	15.4	15.4	15.3	14.0%
OHR (%)	73.7	70.1	▲3.1	70.0	61.0%
株主資本ROE (%)	4.0	4.3	▲0.4	4.0	5.0%
自己資本比率 (%)	11.17	11.19	+0.02	10.95	10.50%

※1 : 2行単体合算+九州FG証券

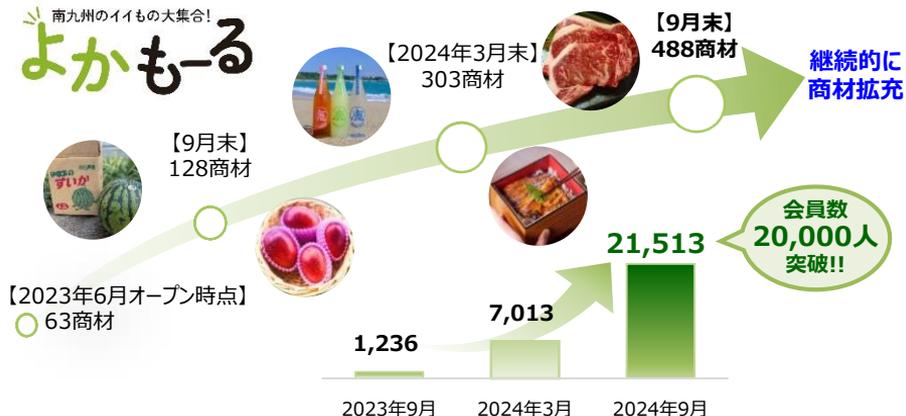
※2 : 役務利益比率 = 役務等利益 ÷ コア業務粗利益 (業務粗利益 - 国債等債券損益)

6. 【基本戦略1】未来を創る地域価値提供の取り組み加速

戦略の柱① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充

地域商社「九州みらいCreation」

ECモール事業「よかもーる」



再生可能エネルギーへの取り組み

KSIナジー 肥後銀行

2024年1月設立

- 地方銀行による電力子会社設立は、九州で第一号
- 太陽光発電事業に照準を絞って事業展開し、将来は、太陽電池事業への進出を目指す



戦略の柱② 地域・お客さま起点のソリューション提供

事業承継・M&Aへの取り組み

かざん共創投資 鹿児島銀行

2023年11月設立

- 「かざん共創投資1号事業有限責任組合」(ファンド総額10億1百万円)を設立し、運営を開始



九州M&Aアドバイザーズ 肥後銀行

2024年4月設立

- 日本M&Aセンターホールディングス、玉山ベンチャーキャピタルと3社共同出資により、M&A専門会社を設立



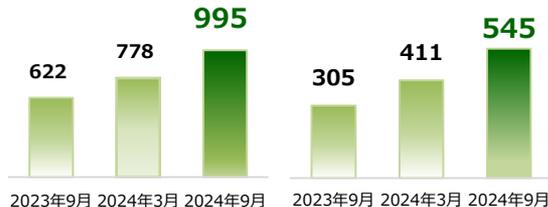
創業・開業への取組み

スタートアップ° ハブくまもと 肥後銀行

スタートアップ° ハブくまもと

開業相談件数(累計)

新規開業件数(累計)



- 2022年4月オープン
- 創業・開業に関する幅広い支援・サービスを提供
- 約80先のパートナーと提携
- くまもと創業・開業応援ファンドを設立、自己資金がなくても開業できるスキームを国内で初めて構築

7. 【基本戦略2】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

戦略の柱①

地域産業の成長支援強化

収益機会の拡大・
稼げる情報の収集力強化

情報営業の横断的な展開
および広域化

- ◆ サプライチェーン参入機会創出
- ◆ 台湾企業に対するワンストップ進出支援・職域取引拡大
- ◆ 不動産ビジネスマッチングの提案力強化
- ◆ 九州・沖縄地銀13行連携・協力
- ◆ 半導体産業振興地域への施策展開・企業進出支援
- ◆ 行政連携による社会インフラ整備支援

TSMC進出を起点とする産業集積促進と地域経済活性化の実現

電子デバイス関連産業への取り組み

電子デバイス関連の融資案件の状況（億円）

	実績		今後の見込み	
	件数	金額	件数	金額
サプライチェーン	322	795	81	1,192
周辺開発等	648	1,078	119	231
計	970	1,873	200	1,423

(実績：'22年度～'24/9の累計、今後の見込み：'24/9末時点)

サプライチェーン

サプライチェーン
参入企業数 KPI

50社 (3年累計)

2024年9月末 実績

5社

産業集積に伴う経済波及効果を見直し（熊本県内、億円）

経済波及効果推計値（10年間累計）は、**6.9兆円**から**11.2兆円**へと増加

分類	2023/8		2024/9	
	経済波及効果	GRP影響額	経済波及効果	GRP影響額
生産 関連産業	41,406	19,637	75,343	36,458
投資 関連産業 土地造成等	27,113	14,826	36,577	19,725
10年累積効果 2022～31年	68,518	34,463	111,920	56,182

2024.11 Q-BASSを活用した他行との連携

ESG/SDGs・脱炭素取組支援サービスの相互導入決定
(肥後銀行・福岡銀行)

九州沖縄・山口エリアの企業へのさらなる
サステナビリティ経営支援の強化を目指す



商談会の様子

2023年

- 7月 肥後 鹿児島 玉山商業銀行股份有限公司（台湾）と業務提携
- 4月 肥後 「半導体クラスター推進室」設置
- 6月 肥後 「台北駐在員事務所」開設 ※鹿児島銀行は2019年4月に開設済
- 7月 肥後 鹿児島 KFG 「日台経済交流シンポジウムin熊本」開催
- 11月 鹿児島 「九州・台湾クリエイティブウィーク in薩摩川内」開催

2024年

- 1月 肥後 鹿児島 「新生シリコンアイランド九州」の実現に向けた九州・沖縄地銀連携協定締結（愛称：Q-BASS）
- 9月 肥後 鹿児島 玉山銀行との「九州の逸品商談会 in 台湾」開催

戦略の柱①

人的資本経営の実践による社員価値向上

業界平均を上回るエンゲージメント

従業員のエンゲージメント調査のスコアは、グループ全体で74ポイントと、業界平均70ポイントに対して良好

エンゲージメントスコア推移 (KFGグループ総合スコア)



KFGグループアルムナイ制度の導入

【導入目的】

- ・採用の裾野の拡大、社員能力を最大限に発揮できる機会提供
- ・アルムナイとK F Gグループ、アルムナイ同士の交流機会提供による、連携・共創機会の創出

【KFGグループアルムナイの特長】

- ・中途退職者に限定せず、採用選考における内定辞退者、およびグループ内転籍希望者を含め、幅広い対象者を設定

賃上げ・初任給改定

2年連続で定期昇給及びベースアップによる5%以上の賃上げ方針（2024年度）を決定し、2025年4月まで3年連続で初任給の引上げを実施

(単位：円)

	2024年度 賃上げ率	2022年 4月	2023年 4月	2024年 4月	2025年 4月
K F G	約5.1%	250,500	270,000	280,000	300,000
肥後銀行	約5.8%	205,000	220,000	240,000	260,000
鹿児島銀行	約5.3%	205,000	220,000	240,000	260,000

多様性の尊重

女性管理職比率

12.8% ※2024年3月末

正規雇用男女間賃金差異

※正規雇用男性従業員の平均賃金に対する
正規雇用女性従業員の平均賃金の割合

肥後銀行 61.6%

鹿児島銀行 55.2%

<女性活躍推進に向けた対応策>

- ・管理職登用の早期化のための育成施策の強化
- ・管理職ポストへのキャリア採用
- ・法人営業や本部企画セクションへの積極配置
- ・役席時のジョブローテーション等、女性管理職モデルの多様化 等

8. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

戦略の柱②

GXにかかる先進的な取り組み

CO₂排出量削減

カーボンニュートラル宣言

Scope1・2について、2030年度までに **カーボンニュートラル達成**

※算定範囲：当社及び当社100%出資子会社

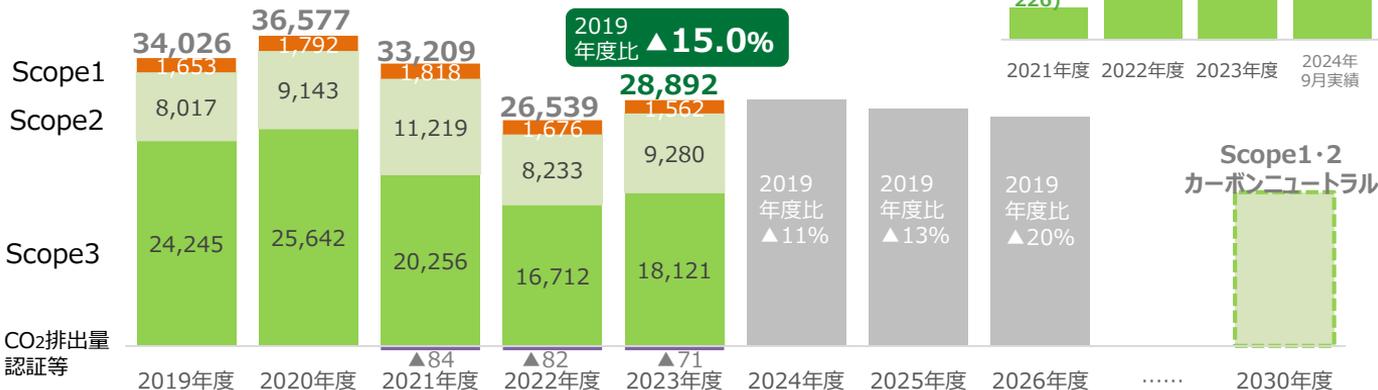
CO₂排出量削減目標（2019年度比）

2026年度までに **▲20%** 2030年度までに **▲30%**

※算定範囲：当社、肥後銀行、鹿児島銀行

目標対象：Scope1、Scope2、Scope3のカテゴリ-1（一部除く）、3、4、5、12

CO₂排出量実績推移（目標対象範囲）（単位:t-CO₂）

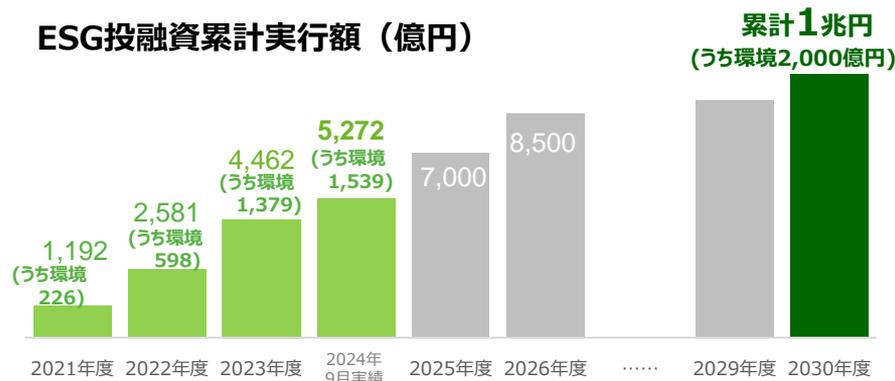


ESG投融資

ESG投融資目標

2021年度～2030年度累計 **1兆円**
(うち環境関連 **2,000億円**)

ESG投融資累計実行額（億円）



<Scope 3 カテゴリ-15>

算出結果：5,564,830t-Co2

- ・2023年度より、上場株式と社債に加え、事業性融資先全先をトップダウン分析により開示
- ・今後、融資先に対するCO₂排出量計測支援等によりボトムアップ分析による算定を進め、精緻化に取り組む

8. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

CO2排出量測定支援システムの開発

肥後銀行

地域・お客様のカーボンニュートラルの実現を目的として、CO2排出量算定システム「炭削くん」を開発



導入件数 2,398件
(2024年9月末)

排出量の算定が
簡単

自社排出量の
可視化

Scope1~3
算定可能

PC・スマホOK
マルチデバイス対応

サプライチェーンでの
排出量算定可能

コンサルティングの取り組み

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度(※)
SDGsコンサルティング件数	29	100	83	103	185
熊本県SDGS登録制度支援件数	-	83	79	46	77
かぎんSDGS宣言書作成支援件数	-	68	333	96	390
合計	29	251	495	245	652

(※) 2024年度は、2024年4月~9月までの実績

畜産業による連携協定

鹿児島銀行

鹿児島県、味の素株式会社、鹿児島県下の畜産関係団体・事業者、鹿児島大学、金融機関との間で「鹿児島県畜産におけるGX 推進及び産業振興に向けた連携協定」を締結



1. 飼料用アミノ酸の実地試験
2. GXの機運醸成・情報発信
3. カーボンクレジットの創出
4. 鹿児島県畜産業の振興

- 温室効果ガスの**排出量削減**
- 生産コストの低減による**経営改善**
- カーボンクレジットによる畜産業の**収入増加**
- 県産牛の**付加価値向上**

8. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

戦略の柱② DXにかかる先進的な取り組み

当社グループ

- ◆ルール共通化
- ◆業務への活用
- ◆業務活用ノウハウ蓄積

① 基幹系システムの統合

基幹系システム統合を方針とし、
2025年度中に最終判断

- ◆システム統合の範囲
- ◆自営開発の範囲
- ◆移行・運用コスト

グループ最適な
基幹系システム

- ◆顧客影響・業務影響
- ◆システム開発・運営態勢
- ◆移行タイミング 他

② デジタル技術を活用した生産性向上

RPA

- ◆業務フロー改善
- ◆定型業務の自動化

生成AI

- ◆プレスト、アイデア創出
- ◆コード、文書作成等

最新技術

- ◆最新技術活用による
生産性向上

地域

- ◆最新技術活用ノウハウの展開
- ◆地域・お客様の生産性向上

地域のデジタル化

鹿児島銀行

Payどん

QRコード決済アプリ「Payどん」によるキャッシュレス決済の普及に取り組んでおります。自治体と連携した地域振興券に始まり、足元では民間企業と連携したプレミアム付き商品券の発行も活発化させています。

肥後銀行

くまモン!Pay

QRコード決済アプリ「くまモン!Pay」の開発に着手し、2025年5月末にサービス開始を予定しております。

九州デジタルソリューションズ

KDS学校会計クラウド

地域のDX推進に向けグループ会社の九州デジタルソリューションズと連携し、2023年4月に学校徴収金事務の合理化に寄与する学校徴収金管理システム「KDS学校会計クラウド」を熊本県立学校67校に導入、今後は全国展開も視野に入れております。

地域デジタルプラットフォーム活性化

グループ共通のスマートフォンアプリ「Hugmeg」(ハグメグ)

累計ダウンロード数

約 **112,000** 件
2024年9月末



【新機能追加】

- Hugメモリー
日々の幸せや頑張りを記録するスタンプ
- おでかけコンシェルジュ
デジタルマップを活用した情報発信機能

戦略の柱③

KFGビジネスモデルの変革

第4次グループ中期経営計画においては、「躍進」という名称が示す通り、行動が重視されるため、パーパス・ビジョンに加え、バリュー（価値観・行動指針）を制定

パーパス
(存在意義)

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を育て、守り、引き継ぐことで、地域の未来を創造していく為に存在しています

PURPOSE

ビジョン
(目指す姿)

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造する『地域価値共創グループ』への進化

VISION

バリュー
(価値観・行動指針)

誠実 … 高い倫理観を持って行動する
主体性 … 自ら考え、失敗を恐れずに行動する
チームKFG … 志を一つに、グループの最適を考えて行動する

VALUE



Kyushu FG

計数資料

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 決算概況

【肥後銀行】

- ・ 業務粗利益は、資金利益の増加等により、前年同期比+25億円の256億円となった。
- ・ 経常利益は、経費の増加や株式等関係損益の減少等により、前年同期比▲25億円の107億円となった。
- ・ 中間純利益は、前年同期比▲18億円の75億円となった。

肥後銀行 損益状況

(億円)

	2023/9	2024/9	増減
経常収益	547	493	▲ 53
業務粗利益	231	256	25
うち資金利益	225	251	26
うち役務取引等利益	42	37	▲ 5
うちその他業務利益	▲ 35	▲ 32	3
(うち国債等債券損益)	▲ 22	1	24
経費 (▲)	180	191	10
コア業務純益	73	63	▲ 10
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	—	—	—
業務純益	50	65	14
臨時損益	81	42	▲ 39
不良債権処理額等 (▲)	▲ 5	▲ 8	▲ 2
株式等関係損益	73	29	▲ 44
その他臨時損益	1	4	2
経常利益	132	107	▲ 25
税引前中間純利益	132	107	▲ 25
中間純利益	94	75	▲ 18
(与信費用)	▲ 6	▲ 8	▲ 2

【鹿児島銀行】

- ・ 業務粗利益は、資金利益や役務取引等利益の増加等により、前年同期比+13億円の269億円となった。
- ・ 経常利益は業務粗利益の増加等により、前年同期比+4億円の98億円となった。
- ・ 中間純利益は、前年同期比+60百万円の68億円となった。

鹿児島銀行 損益状況

(億円)

	2023/9	2024/9	増減
経常収益	377	378	0
業務粗利益	256	269	13
うち資金利益	232	247	14
うち役務取引等利益	30	37	7
うちその他業務利益	▲ 6	▲ 15	▲ 8
(うち国債等債券損益)	2	▲ 0	▲ 2
経費 (▲)	169	171	2
コア業務純益	84	98	13
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	5	▲ 6	▲ 11
業務純益	81	104	22
臨時損益	12	▲ 6	▲ 18
不良債権処理額等 (▲)	▲ 4	12	17
株式等関係損益	8	1	▲ 7
その他臨時損益	▲ 0	5	6
経常利益	94	98	4
税引前中間純利益	94	97	3
中間純利益	67	68	0
(与信費用)	0	6	5

2. 資金利益

【肥後銀行】 251億円（前年同期比+26億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加等により、前年同期比+26億円となった。

【鹿児島銀行】 247億円（前年同期比+14億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息やの増加等により、前年同期比+14億円となった。

肥後銀行 資金利益の状況

(億円)

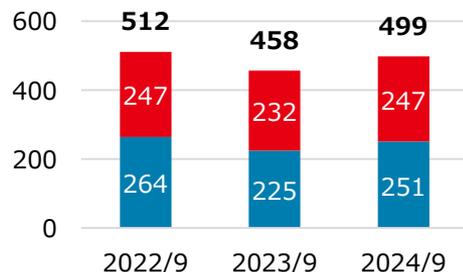
	2022/9	2023/9	2024/9	2023/9比 増減
資金利益	264	225	251	26
国内部門	240	203	229	26
うち貸出金利息	169	176	189	13
うち有価証券利息	70	34	43	8
うち資金調達コスト (▲)	4	9	14	4
国際部門	24	21	22	0
うち貸出金利息	9	22	24	1
うち有価証券利息	49	48	53	5
うち金利スワップ受入利息	-	24	25	0
うち資金調達コスト (▲)	34	73	81	7

鹿児島銀行 資金利益の状況

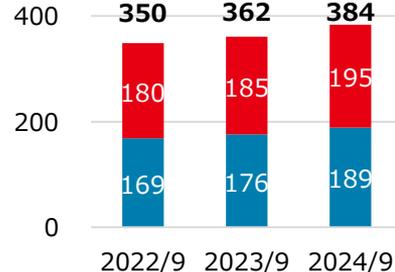
(億円)

	2022/9	2023/9	2024/9	2023/9比 増減
資金利益	247	232	247	14
国内部門	233	223	234	10
うち貸出金利息	180	185	195	10
うち有価証券利息	48	40	38	▲1
うち資金調達コスト (▲)	0	2	10	8
国際部門	14	9	13	4
うち貸出金利息	3	6	2	△3
うち有価証券利息	34	23	26	2
うち金利スワップ受入利息	-	28	33	4
うち資金調達コスト (▲)	24	49	49	▲0

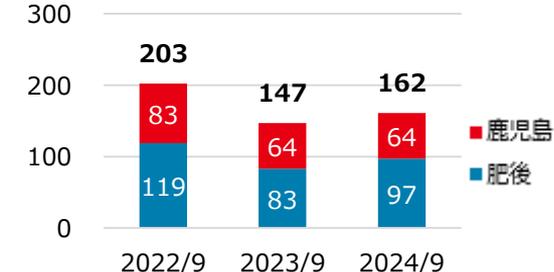
(億円) 資金利益の推移



(億円) 国内貸出金利息の推移



(億円) 有価証券利息の推移



3. 役務取引等利益

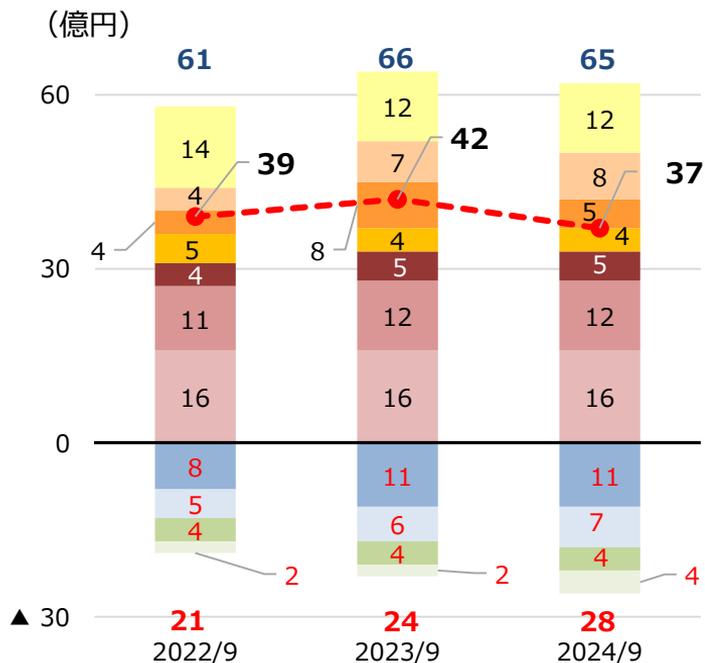
【肥後銀行】

- 役務取引等利益は、ローン取扱手数料などが増加したが、法人推進手数料の減少等により、前年同期比▲5億円の37億円となった。

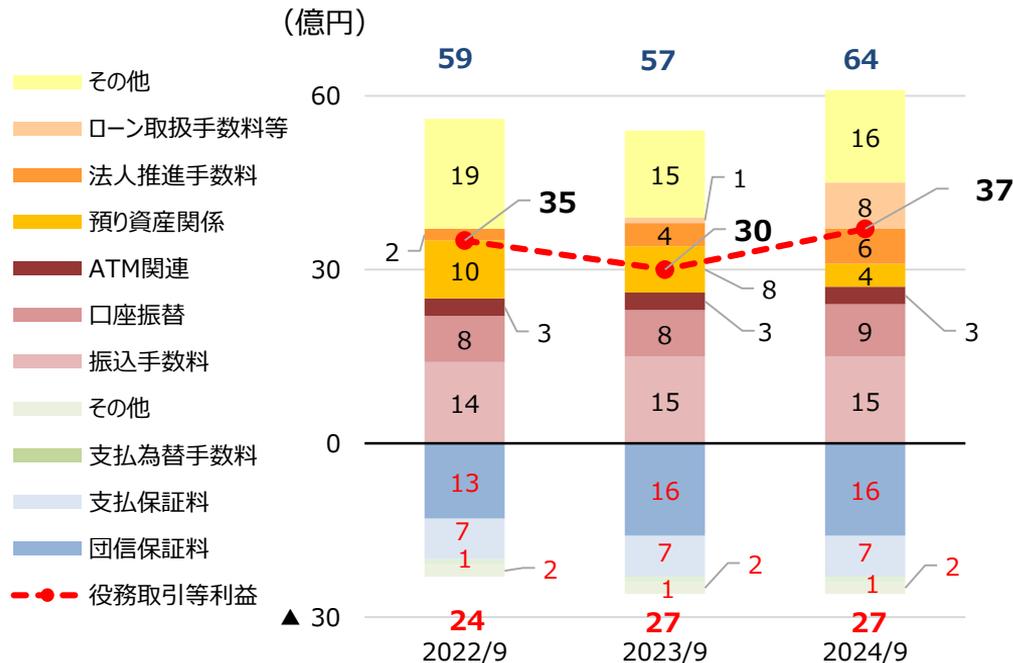
【鹿児島銀行】

- 役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等により、前年同期比+7億円の37億円となった。

肥後銀行 役務取引等利益の状況



鹿児島銀行 役務取引等利益の状況

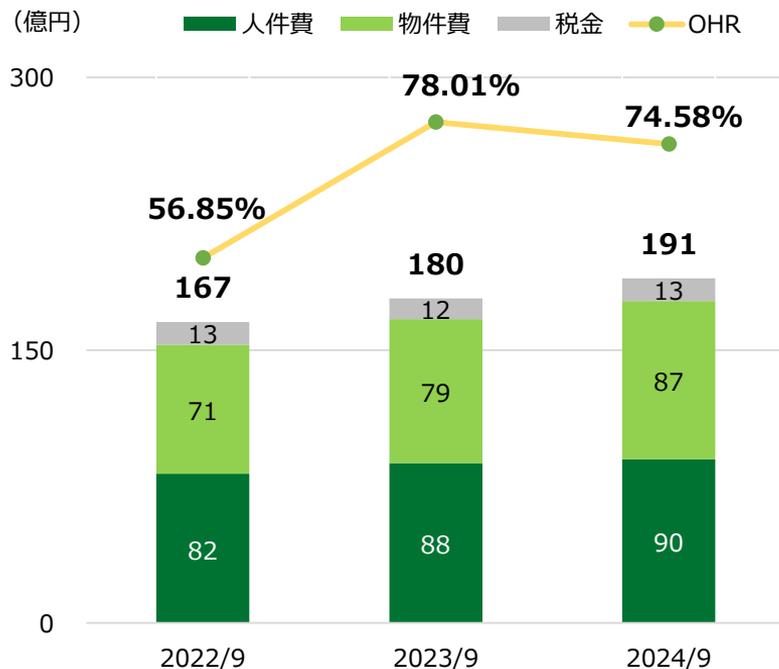


4. 経費

【肥後銀行】

- ・ 経費は、物件費、人件費の増加等により前年同期比+10億円の191億円となった。
- ・ OHRは、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により前年同期比▲3.43%の74.58%となった。

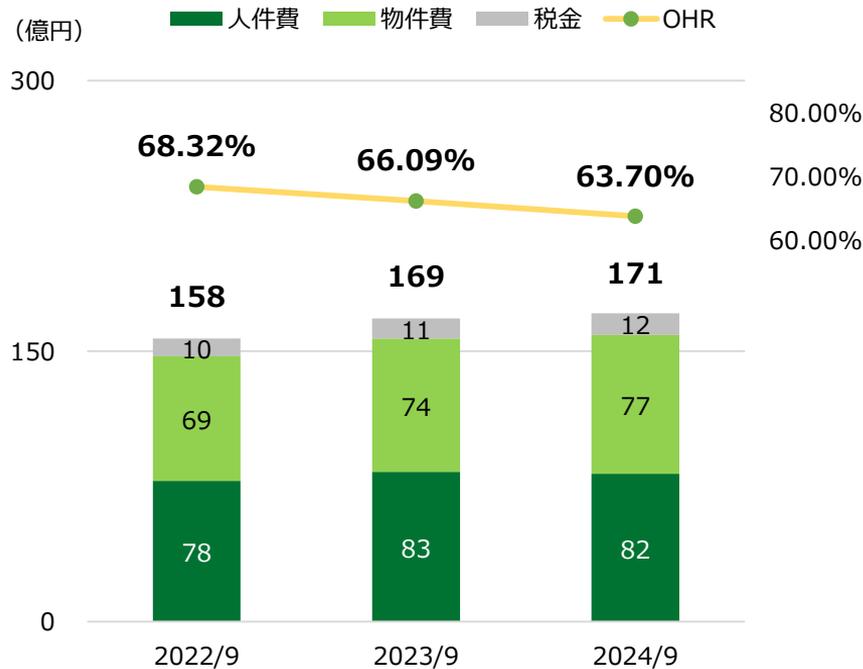
肥後銀行 経費の状況



【鹿児島銀行】

- ・ 経費は、物件費の増加等により前年同期比+1億円の171億円となった。
- ・ OHRは、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により前年同期比▲2.39%の63.70%となった。

鹿児島銀行 経費の状況



5. 貸出金（平残）

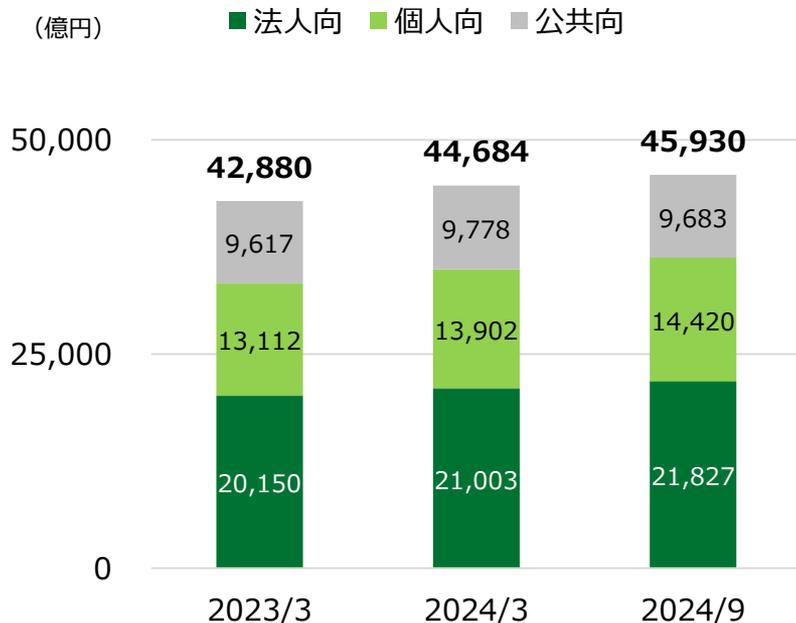
【肥後銀行】（平残）

- 各区分において、貸出金平残がいずれも増加したことから、前年度末比+1,246億円の4兆5,930億円となった。

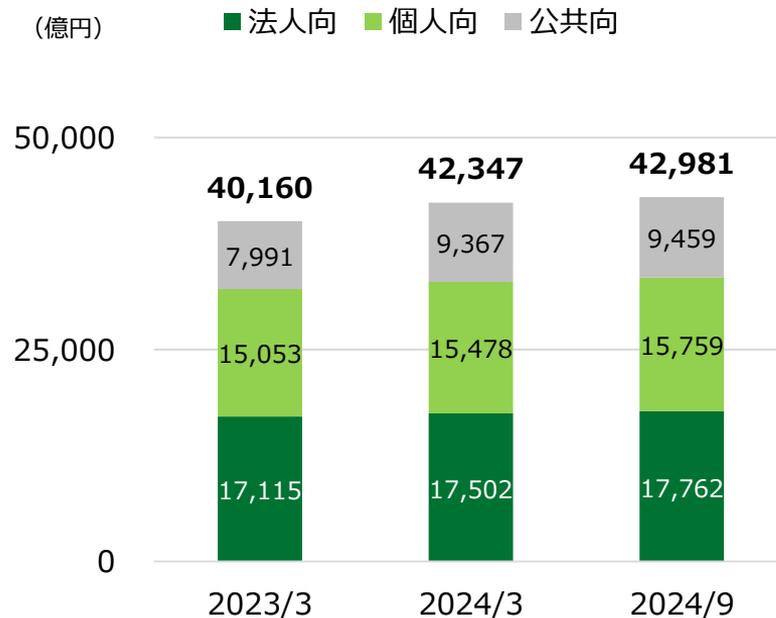
【鹿児島銀行】（平残）

- 各区分において、貸出金平残がいずれも増加したことから、前年度末比+633億円の4兆2,981億円となった。

肥後銀行 平残



鹿児島銀行 平残

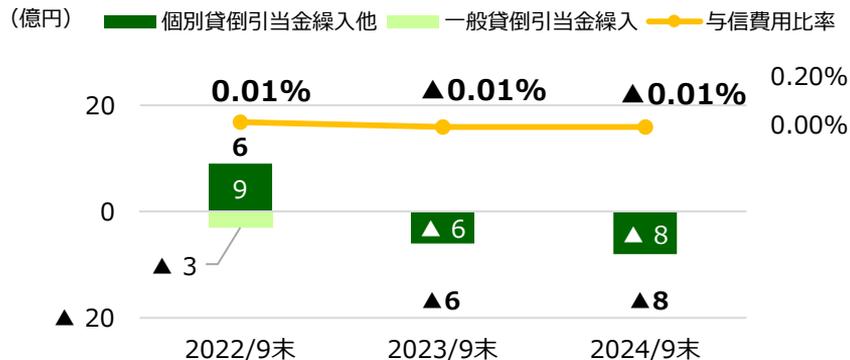


6. 与信費用と金融再生法開示債権

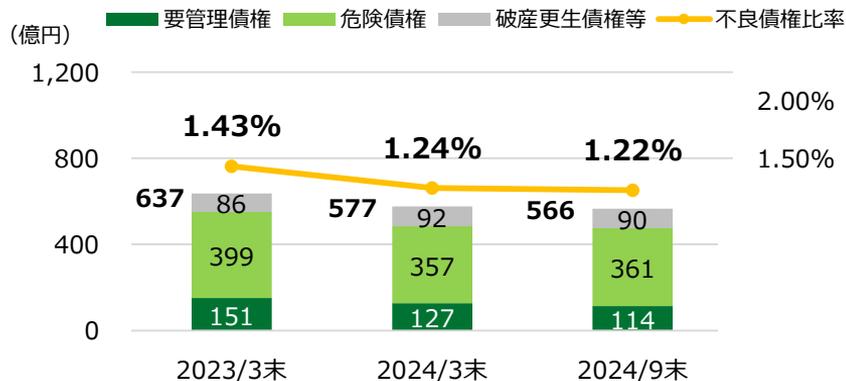
【肥後銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年同期比横ばいの▲0.01%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.02%の1.22%となった。

肥後銀行 与信費用の状況



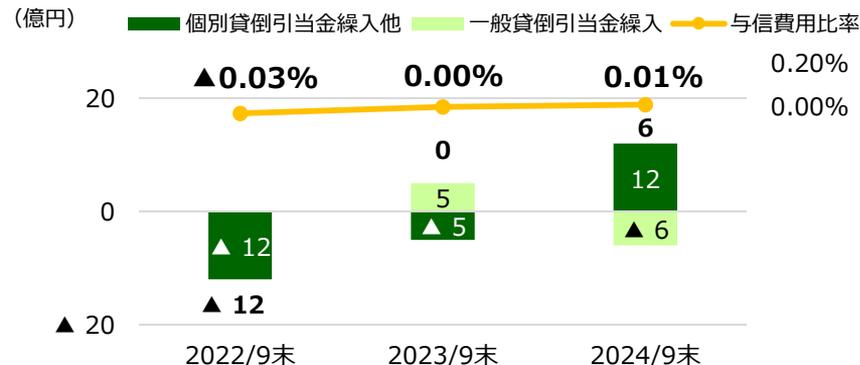
肥後銀行 金融再生法開示債権の状況



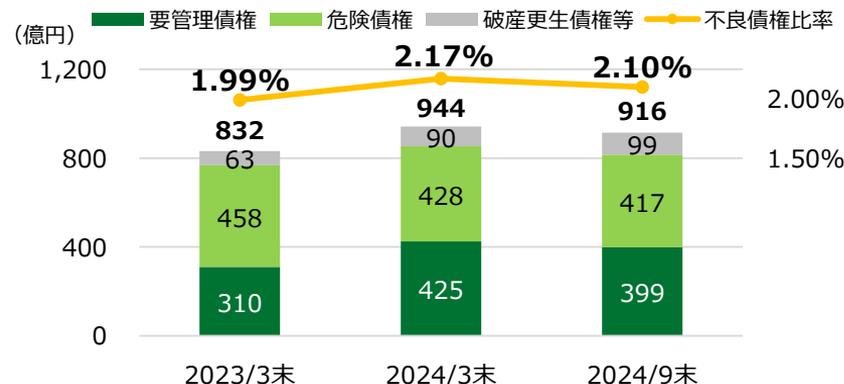
【鹿児島銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年同期比+0.01%の0.01%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.07%の2.10%となった。

鹿児島銀行 与信費用の状況



鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況



7. 有価証券（残高）

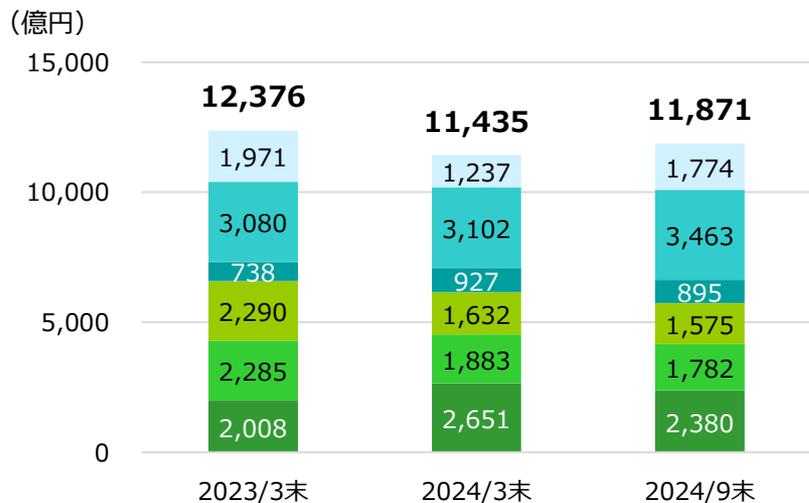
【肥後銀行】

- ・ 有価証券残高は、投信他及び外国証券等が増加したことから、前年度末比+436億円の1兆1,871億円となった。

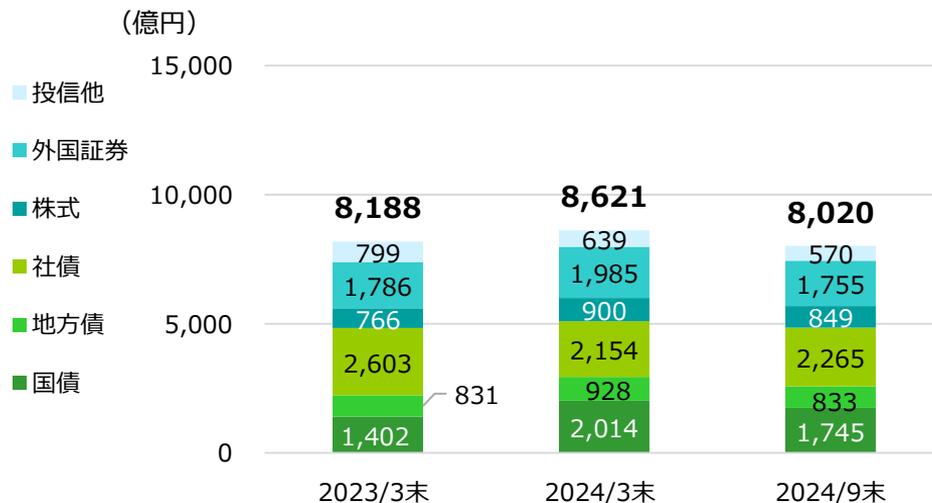
【鹿児島銀行】

- ・ 有価証券残高は、国債及び外国証券等が減少したことから、前年度末比▲601億円の8,020億円となった。

肥後銀行 有価証券残高の状況



鹿児島銀行 有価証券残高の状況



7. 有価証券（評価損益）

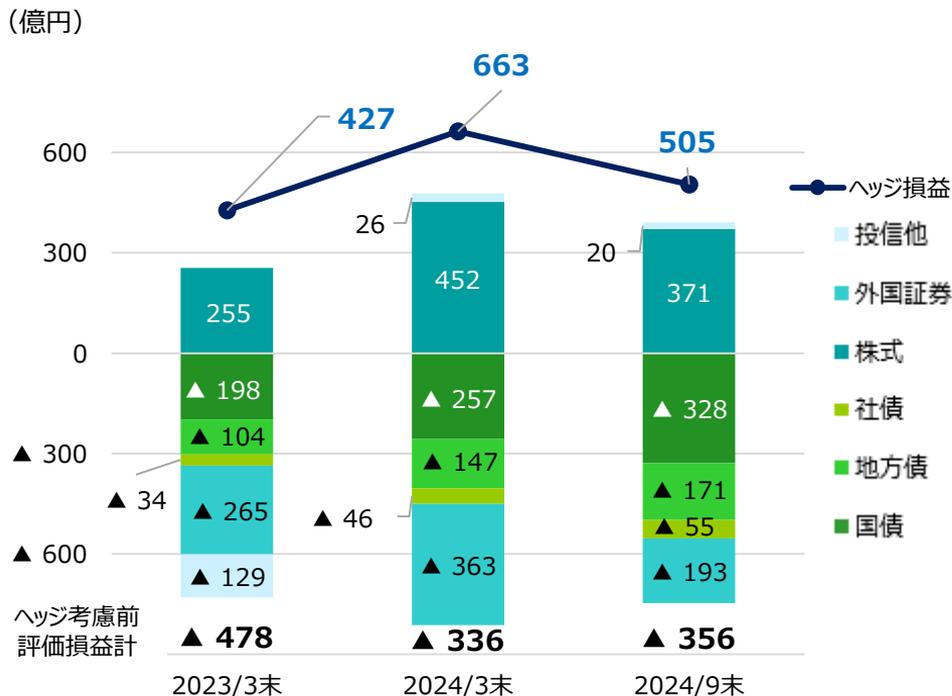
【肥後銀行】

・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、148億円となった。

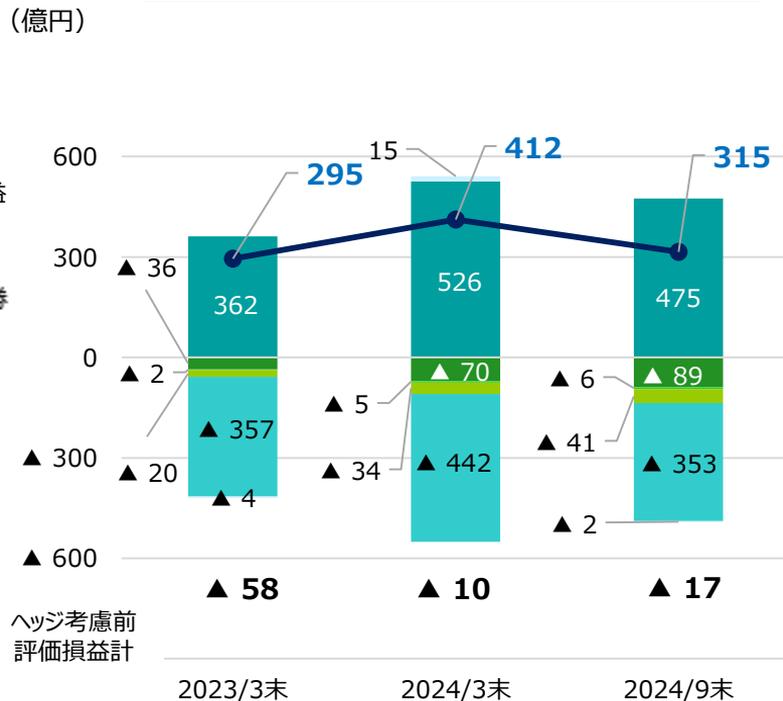
【鹿児島銀行】

・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、298億円となった。

肥後銀行 有価証券評価損益の状況



鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況



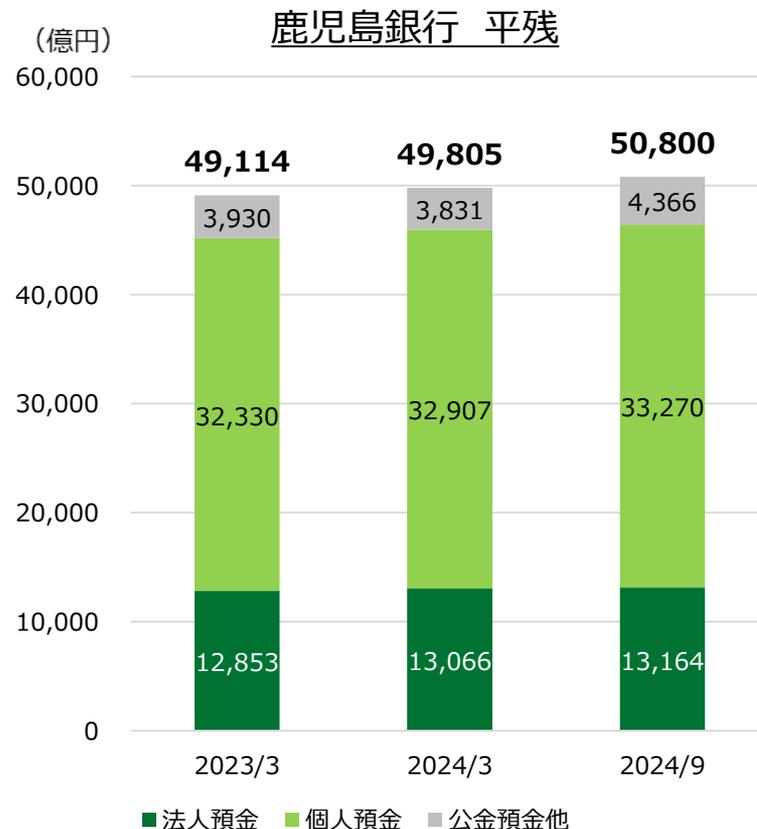
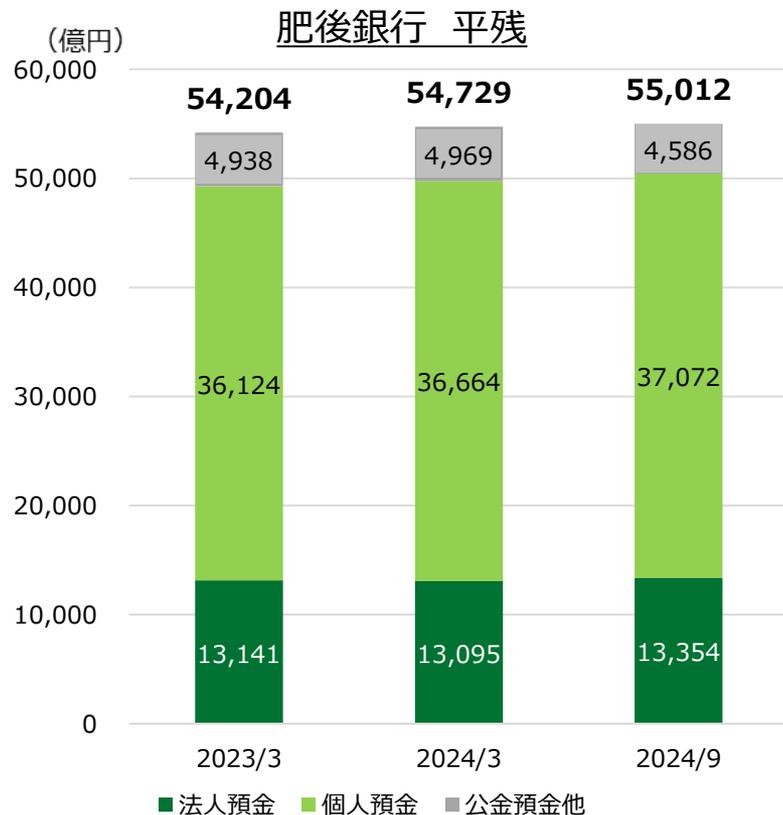
8. 総預金（含むNCD）（平残）

【肥後銀行】

- 法人預金及び個人預金の平残が増加したことから、前年度末比+283億円の5兆5,012億円となった。

【鹿児島銀行】

- 全ての分類の平残が増加したことから、前年度末比+995億円の5兆0,800億円となった。

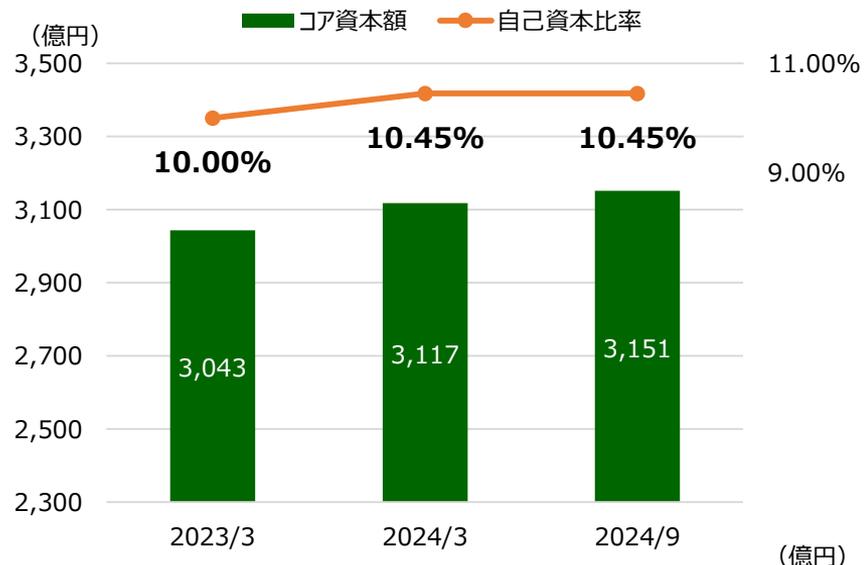


9. 自己資本比率

【肥後銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比横ばいの10.45%となった。

肥後銀行 自己資本比率の状況

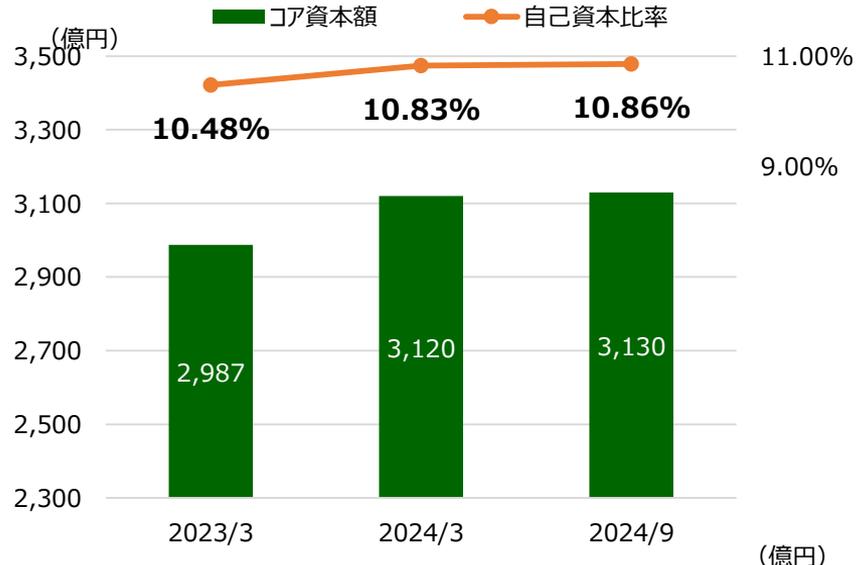


	2023/3	2024/3	2024/9	2024/3比増減
①コア資本額	3,043	3,117	3,151	34
②リスクアセット	30,409	29,808	30,140	332
自己資本比率 (①÷②)	10.00%	10.45%	10.45%	0.00%

【鹿児島銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比+0.03%の10.86%となった。

鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	2023/3	2024/3	2024/9	2024/3比増減
①コア資本額	2,987	3,120	3,130	9
②リスクアセット	28,484	28,811	28,820	9
自己資本比率	10.48%	10.83%	10.86%	0.03%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG



2024統合報告書
QRコードよりご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

TEL 096-326-5607